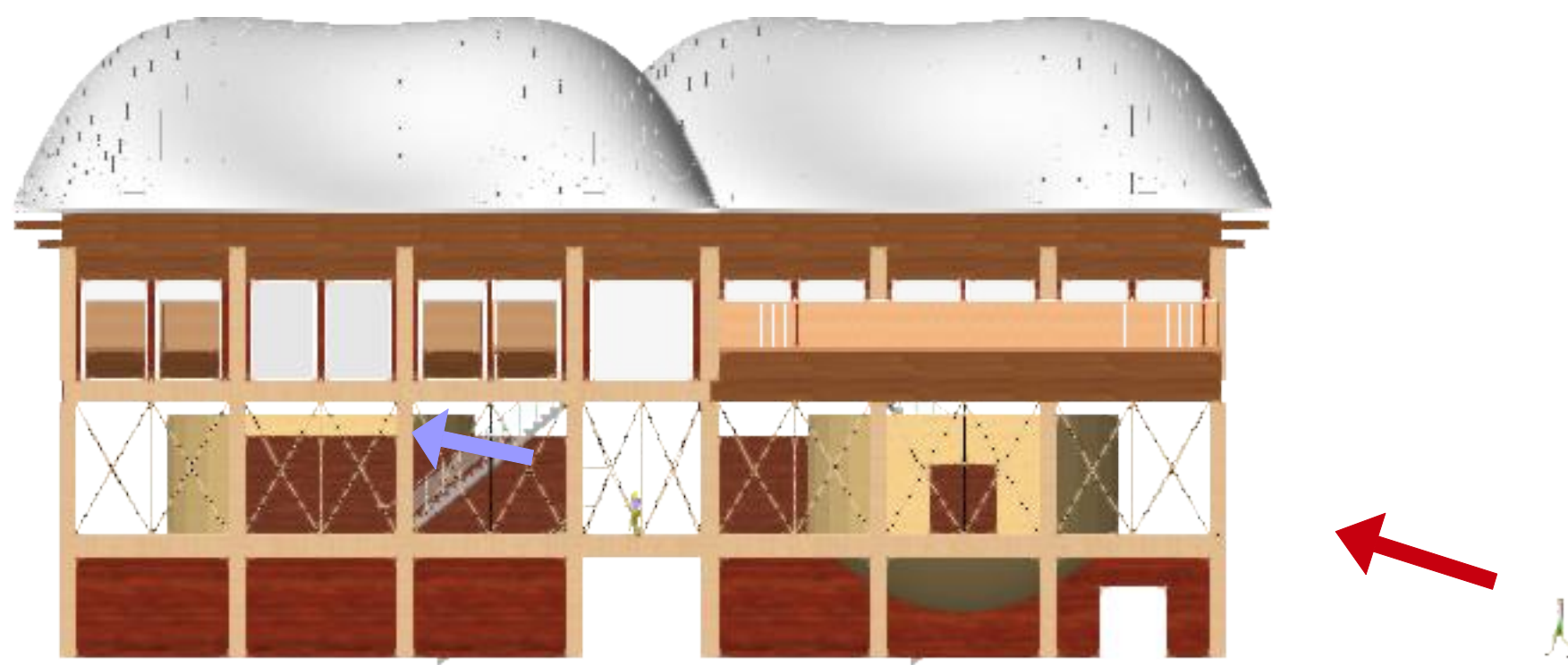


木を魅せる



concept

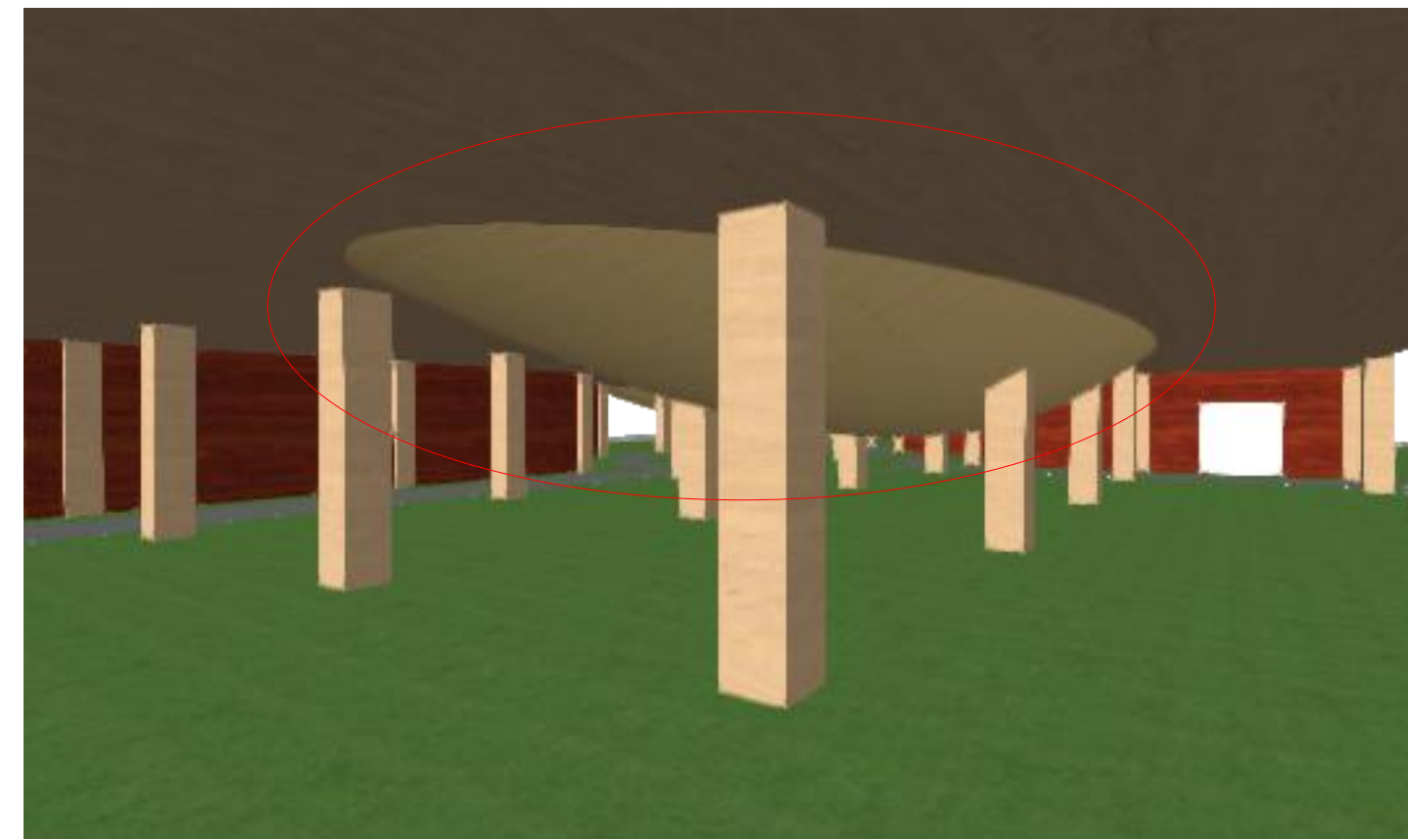
全体のコンセプトとして内と外から見て興味を持たれるような建物にしたいという考えのもと木をみせるような建物を考えてみた。
また、周りを木々が生い茂る場所に立地させることで自然と建物の調和を見せられるようにした。



東側立面図
縮尺: 1:200

point1

上階の展示室の形に沿って下階に突き出たようにオブジェクトを出すことによって外から見た人は視線が向くようになる。



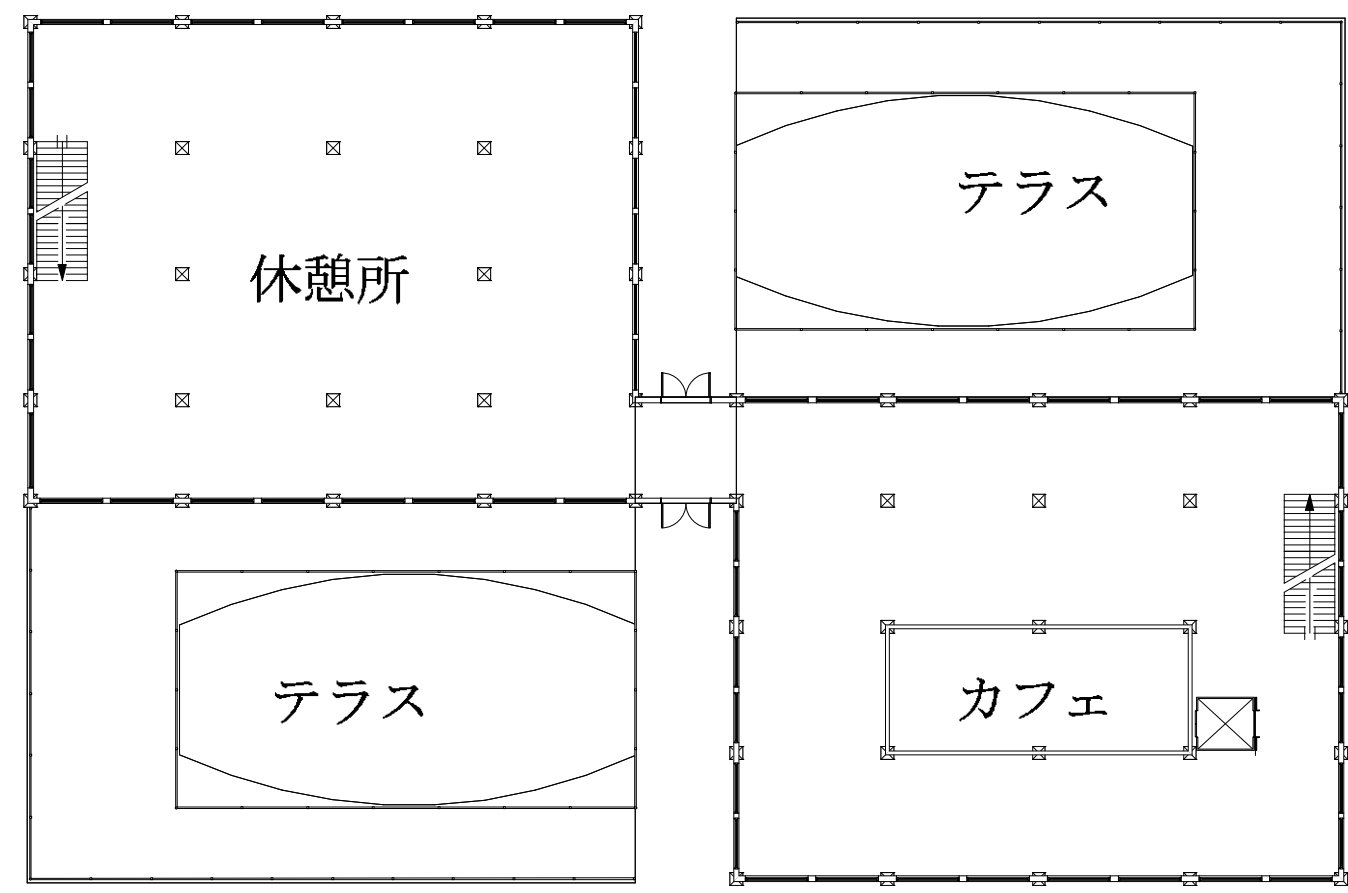
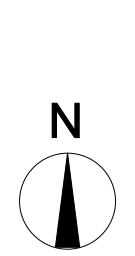
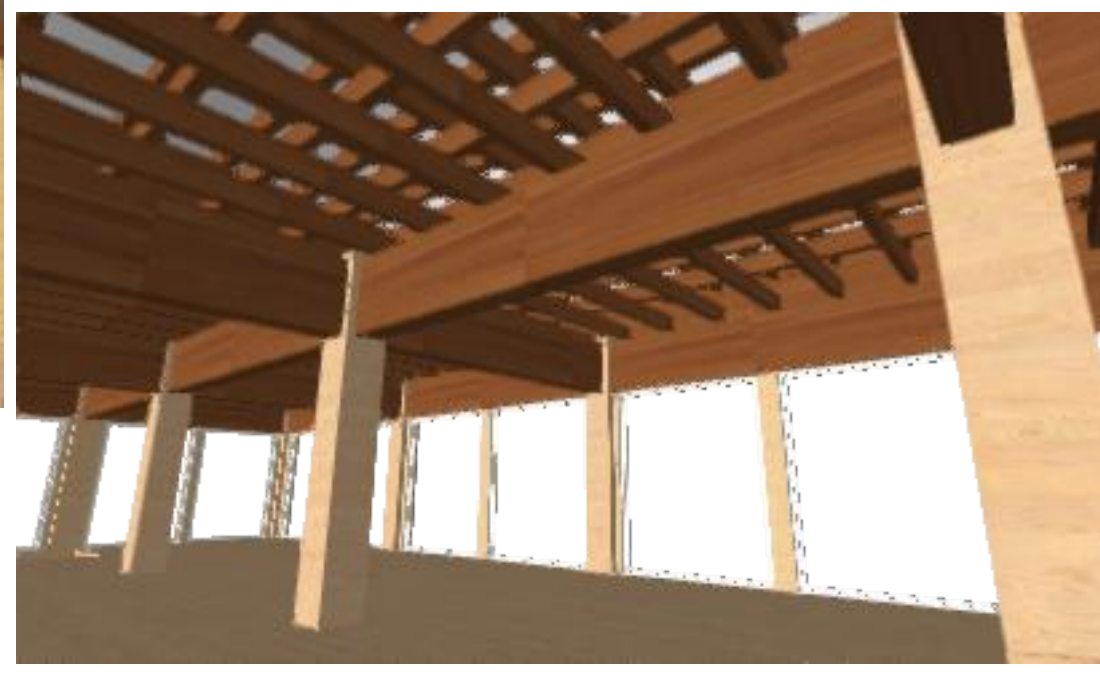
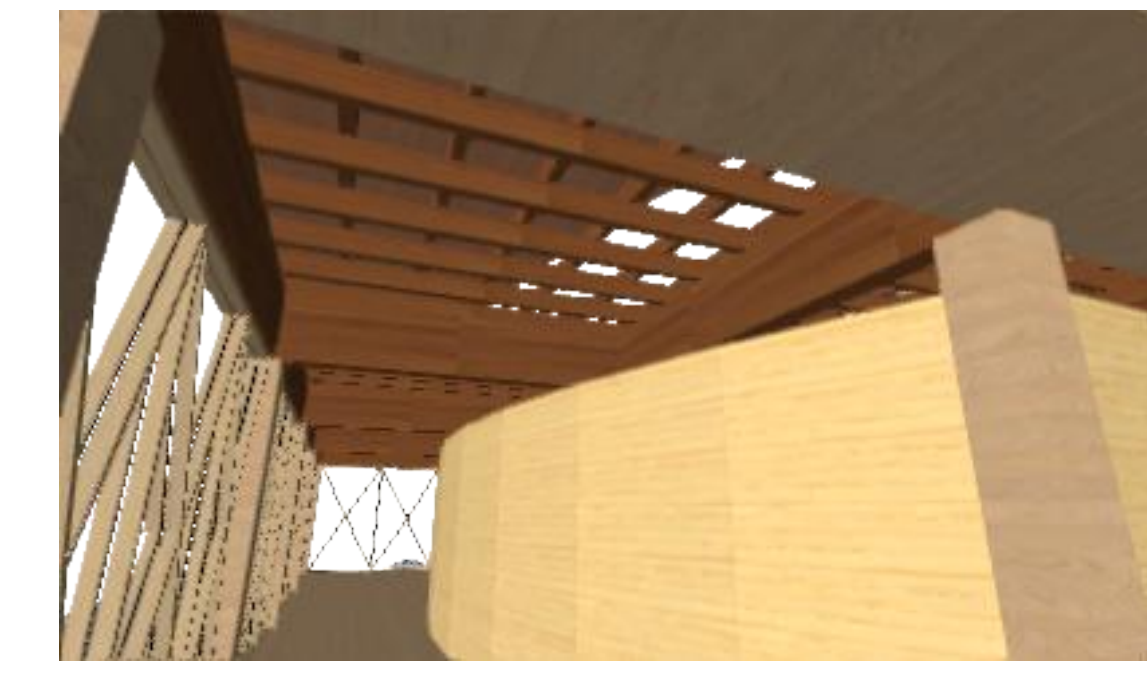
point2

2階の開口部をただの開口部にすることなくトラスのフレームを設けることで耐震上も少しは確保できる。
また、木で斜めのフレームは珍しく内からも外からも見た人は興味が湧くのではないかと考える。

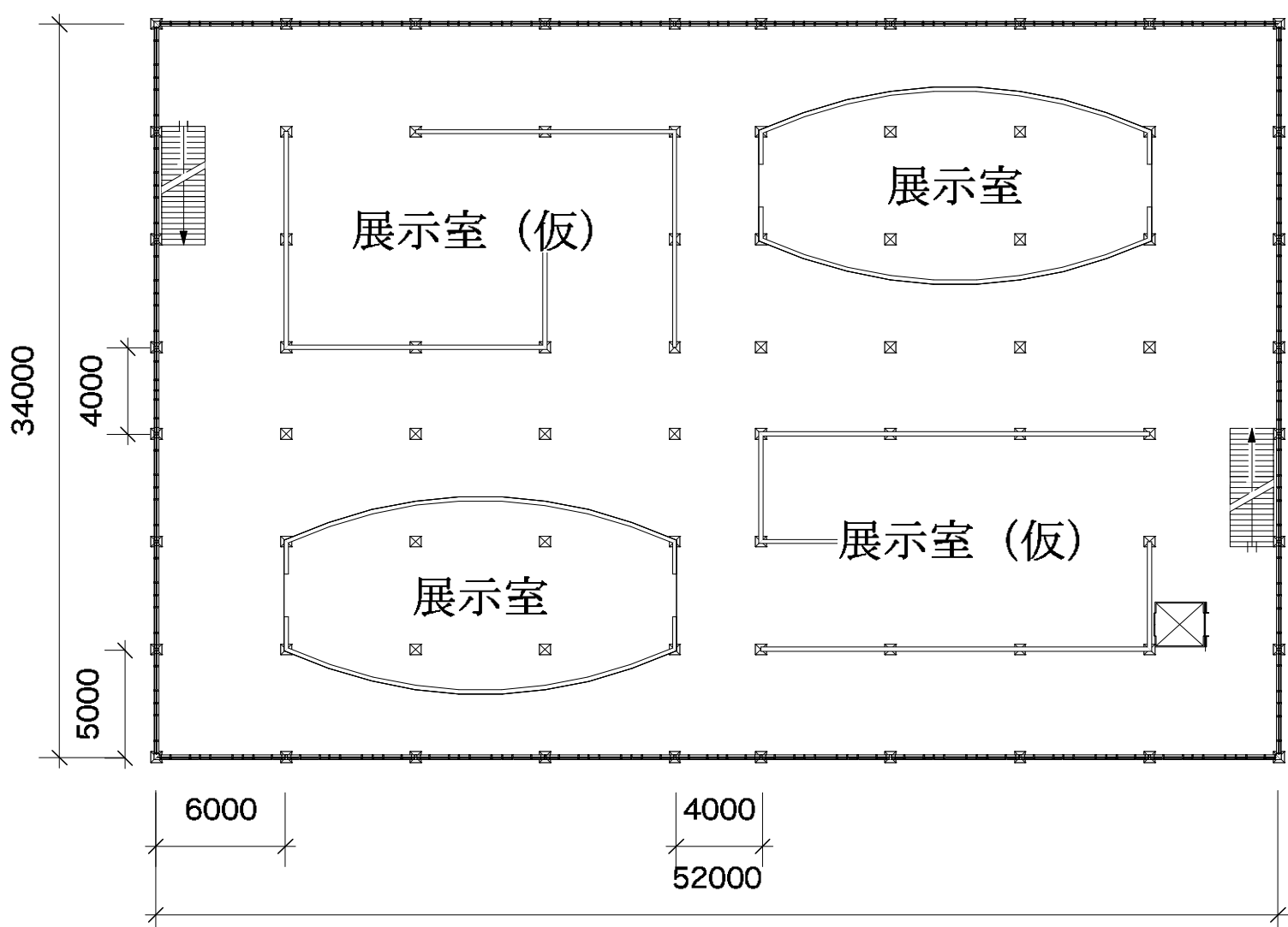


point3

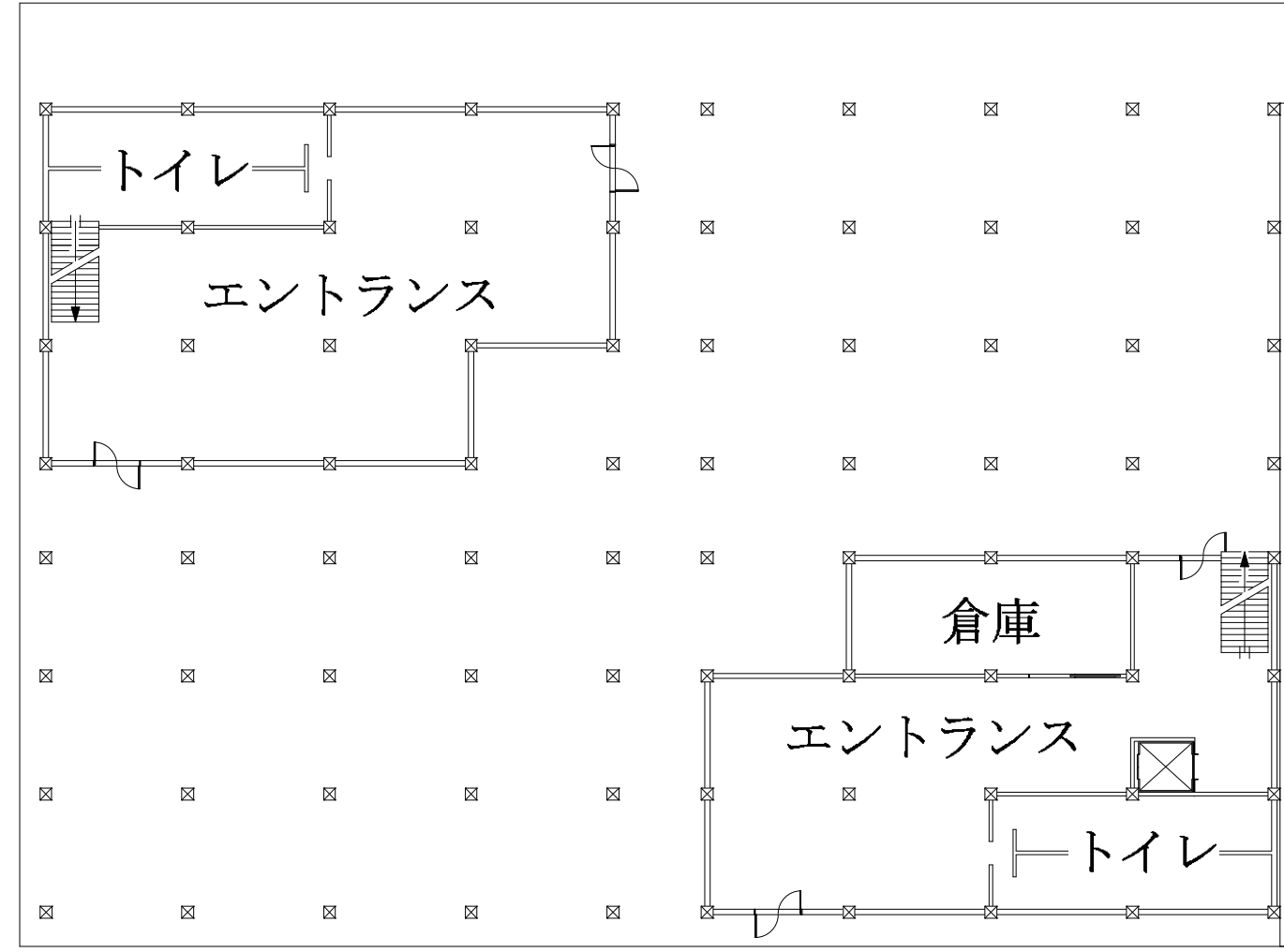
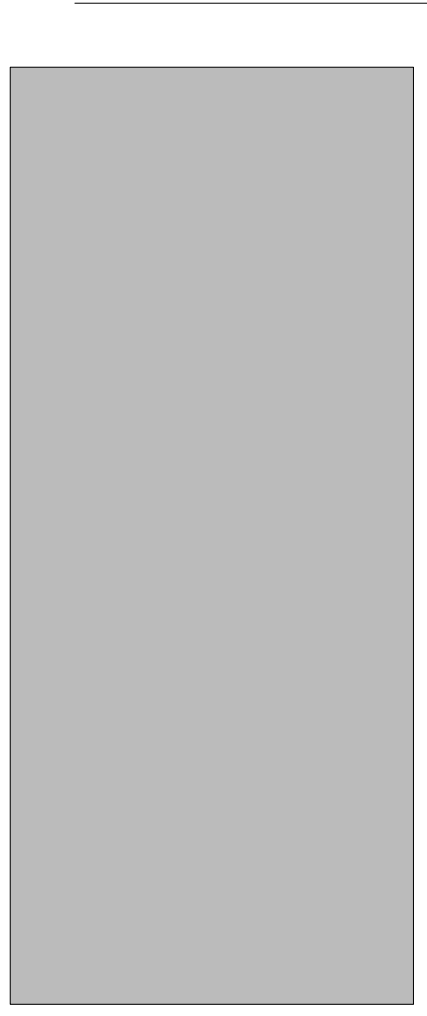
梁を何層にも重ねて、あえて隠さないようにすることで建物の構造を見せつつ人の視線が向くようにする。
また、テラスのところに下階の展示室と同じ形の開口部を設けることによって採光のときに建物内に幻想的な光がさすようにした。



3階-平面図
縮尺: 1:300

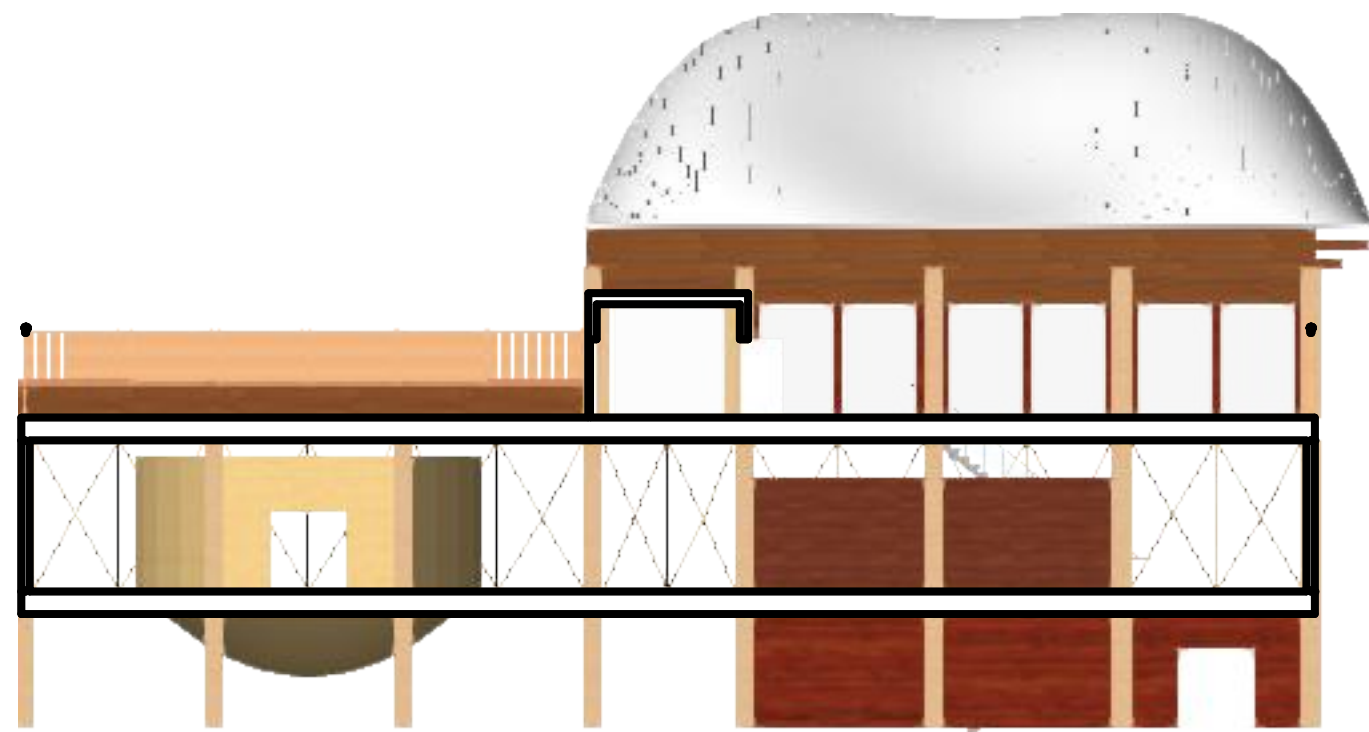


2階 平面図
縮尺: 1:300



1階-配置図 平面図
縮尺: 1:300

道路



南北断面図
縮尺: 1:200

つな^がりの森

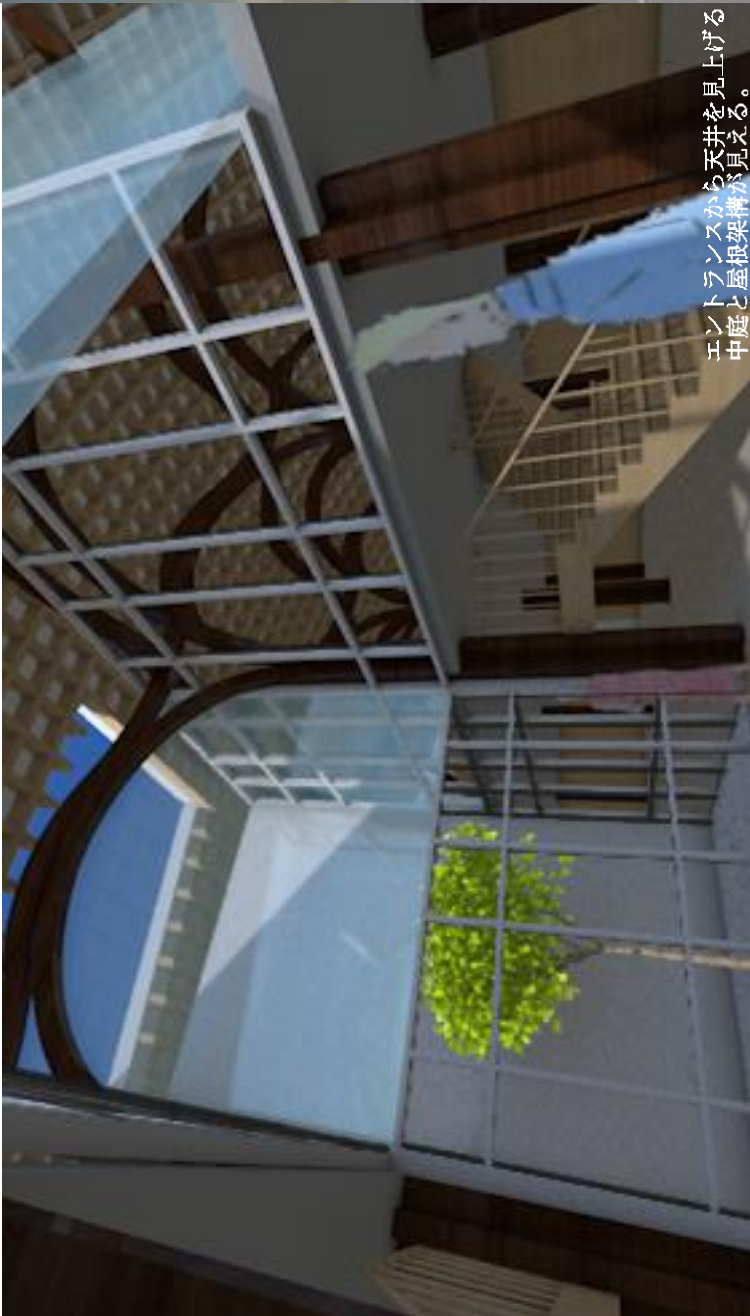


0. コンセプト

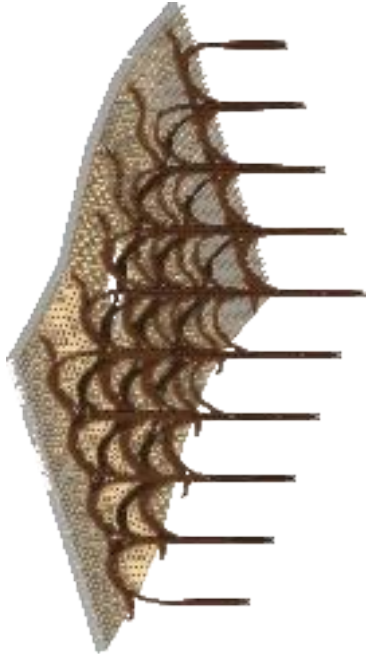
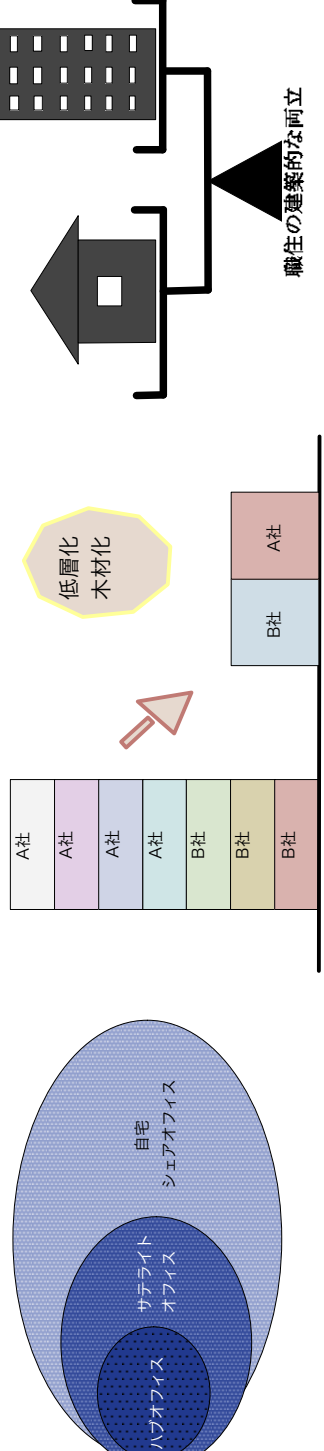
0.1 概要

所在地	秋田県田子町本庄
用途	事務所
建ぺい率	36%
容積率	60%
敷地面積	1600㎡
建延面積	580㎡
延床面積	952㎡
構造	木造
基礎	独立基礎
階数	2階
前面道路	幅員6m
駐車台数	13台

どう距離を取り繋がるのか。従来のように首都圏に密になって高層ビルを建てるのではなく、地方や郊外に拠点を置き繋がる。と言うスタイルが構築されると思う。これは、田舎など人口減少が深刻な地方都市において、若者の働き方やタウンやUターンも期待できると考える。



Point1. 背景と提案



<https://www.google.com/maps/place/ナイスアリーナ>

[illegible]

このような場所に、オフィスビルを建てることは会社の量産効果を大きく期待できる。また、オフィスビルのファサードは企業力の表現の一つになると考える。ターナン・ウターンを見据えて、働き手の居場所の存在を伝えることができると考える。

- ・木質化が進むと考える。

2.地方化・低層化・小規模化

2020年9月24日発行の日報「アサヒ」に掲載された、テレワークを実施した企業は緊急事態宣言解除後も引き続きテレワークを実施し、従業員もテレワークの継続を希望しているという調査結果が70%と高くなっていることがわかった。これにより、オフィスの縮小化が進み、従来オフィスの形態を変え、ハイブリッド・サテライトオフィスの形態を考えた。ハイブリッド・サテライトオフィスの分散する。ハイブリッド・サテライトオフィスの分散する。

今回はオフィス面積が50%になったA社のハブオフィスを改装し、半分をB社に貸し出す想定で設計した。

3.木造化・木質化

近頃のインフレーションに、都市に郊外化し、車に電動化した密な都市でスパンが数階と飛ばし、そこに完全機械化された空間を開閉出来たのが、郊外や地方に置き、社員は徒歩や自転車、自動車で行き来し、そこに外気を導入する空間へと変わる。省エネ化のために、減らされていく空調入量と歩むと考える。省エネ化のため、減らされていく空調入量は3割の削減(従来より都市)を作出するものであった。それではなく、町家のように外気を取り入れる工夫が必要だと考えた。

今までのオフィスビルは、高さが企業の大きさを表す指標として使われたことや、階で入る企業を分けたので高層化の一端を送をたどっていたが、これからは、曜日や同居企業という方向へ転換し、低層化が進むと考える。

小スパン化と言っても、今回は集成材の柱を4.5mほど飛ばしている。従業員全員が入る空間や、大きなホールが必要なところ。これは十分なスパンではないだろうか。




<https://www.google.com/maps/place/ナイスアスリーナ>

敷地に秋田県由利本荘市石巻上原町付近のナイスアスリーナ付近の国道
 7号線に接する所にした。7号線は新潟県新潟市から津波県青森市を結ぶ
 国道であるが、秋田市と由利本荘市を結ぶ大動脈であり、北・陸の関が
 ののアスレシスにも影響の大きい交通要路である。この国道付近は、リー
 ナーやヤシロから、7号線に接してアークセスとするこの付近は由利本荘市街地に敷地に
 アークセスする場所である。

このような場所に、オフィスビルを建てることは会社の量産効果を大きく期待できる。また、オフィスビルのファサードは企業力の表現の一つになると考える。ターナン・ウーテンを見据えて、働き手の居場所の存在を伝えることができると考える。

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9

Point2. 敷地計画

Point3. 環境ダイアグラム

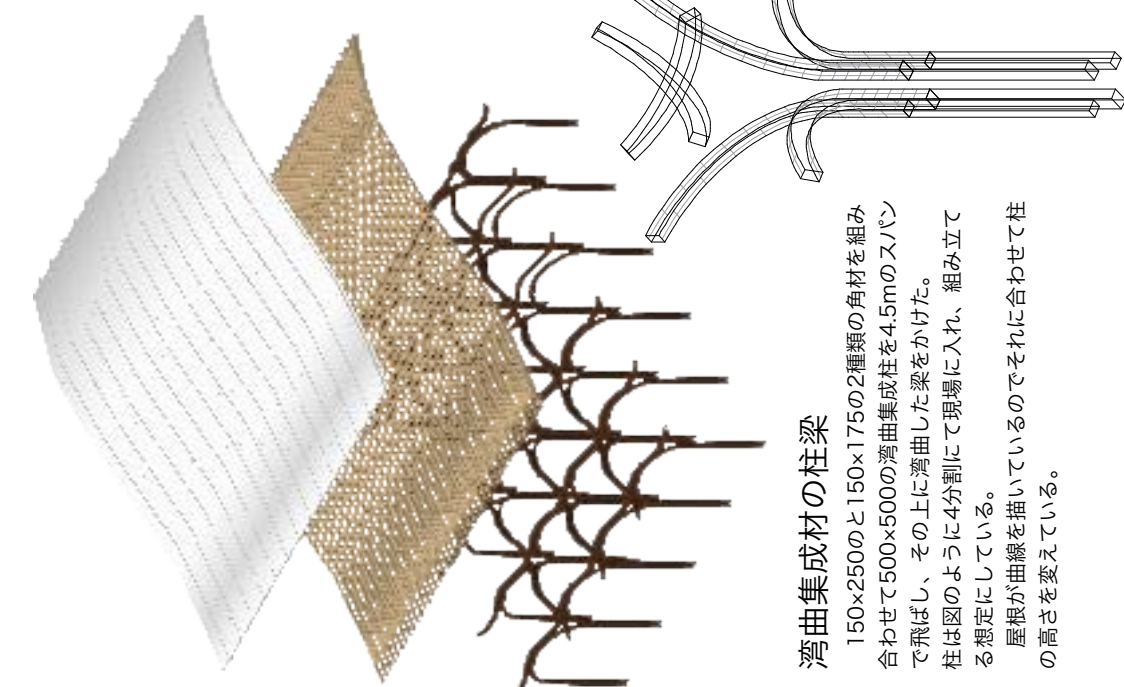


環境に配慮する点で、秋田という寒冷地で外気の熱負荷を最小限に抑え、省エネ化が期待でき、ZEBを実現できるような以下に以下の工夫をした。また、日本設計が設計し、ZEB庁舎としても評価のある「秋田市庁舎」を参考に考えた。

換気室が重要視されるが、従来のオフィスビルは超密閉空間に完全機械換気の閉鎖的な空間であった。今回のオフィスビルは自然換気に期待できず、エアランスを入らずに放つた空気による縦の空気を利用し、自然換気による空気の通り道を果たした。これは、京都の町家にも見られる換気システムであり、秋田市庁舎にもエアリウムを利用した同様の工夫を作られた。

[illegible]

米田の米



構造アクソメ

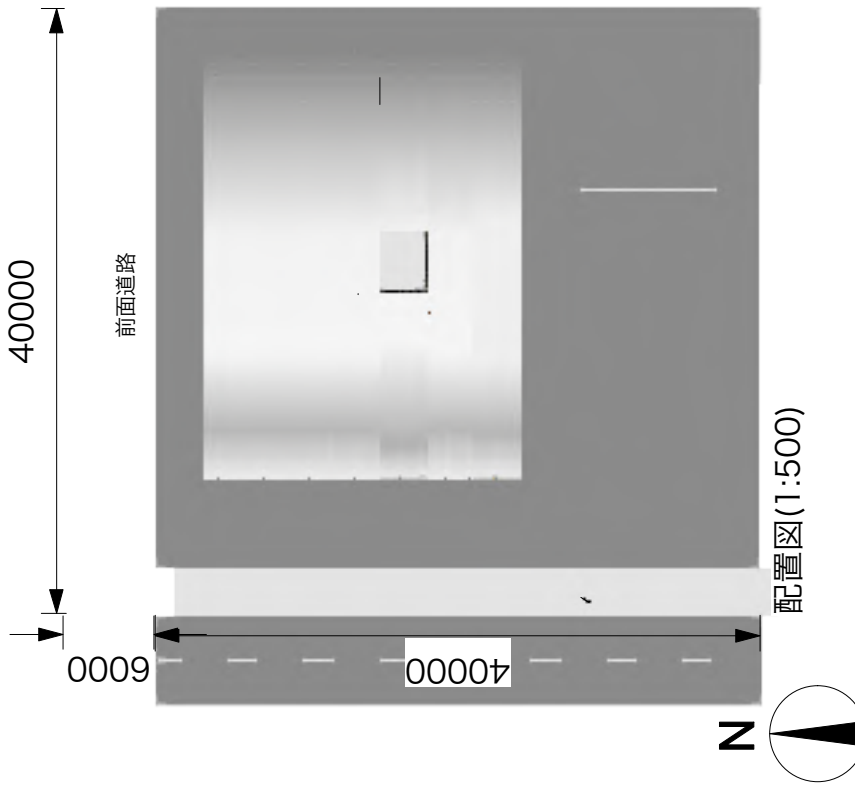
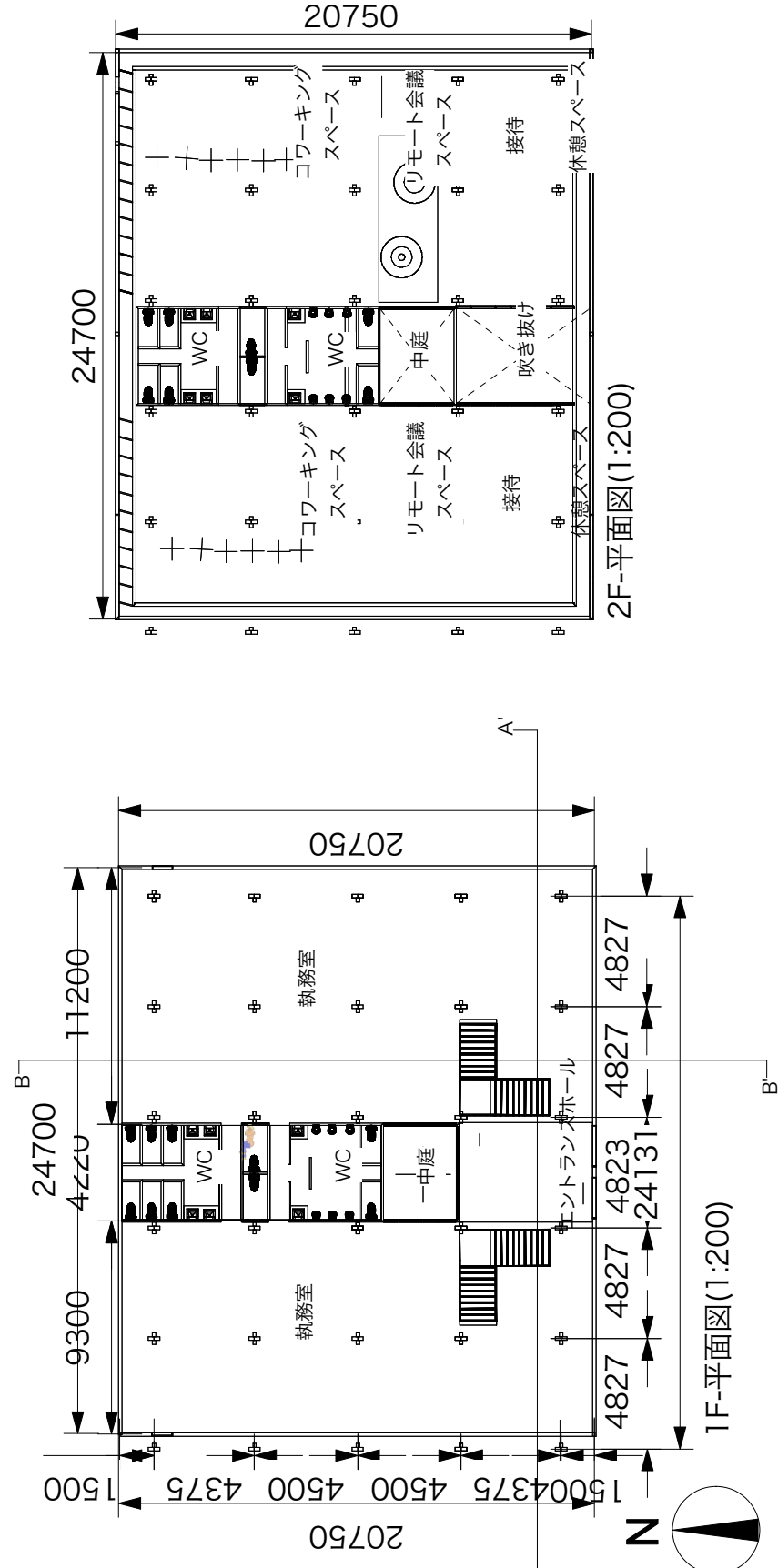
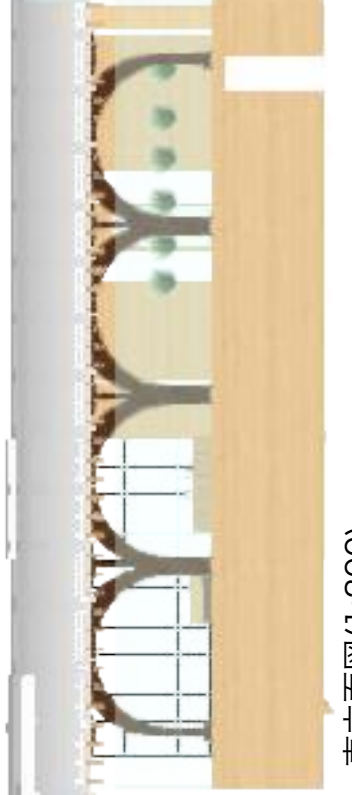
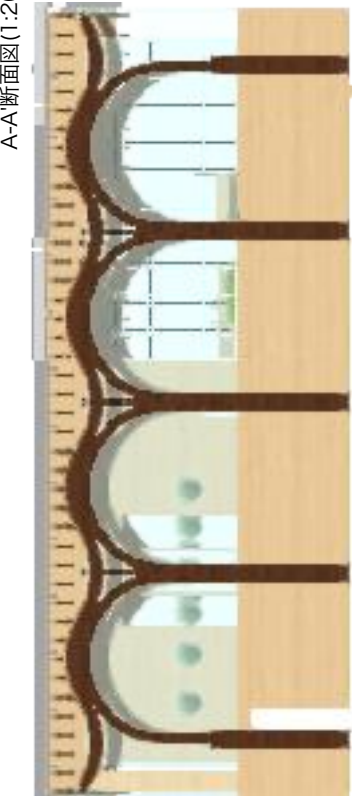
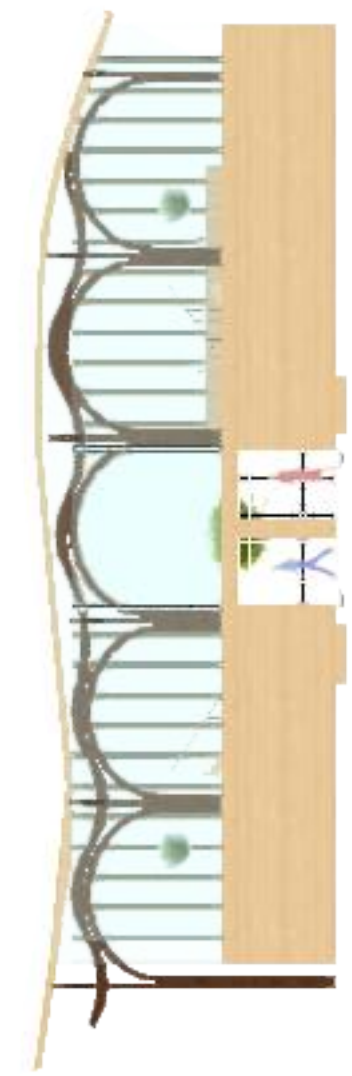
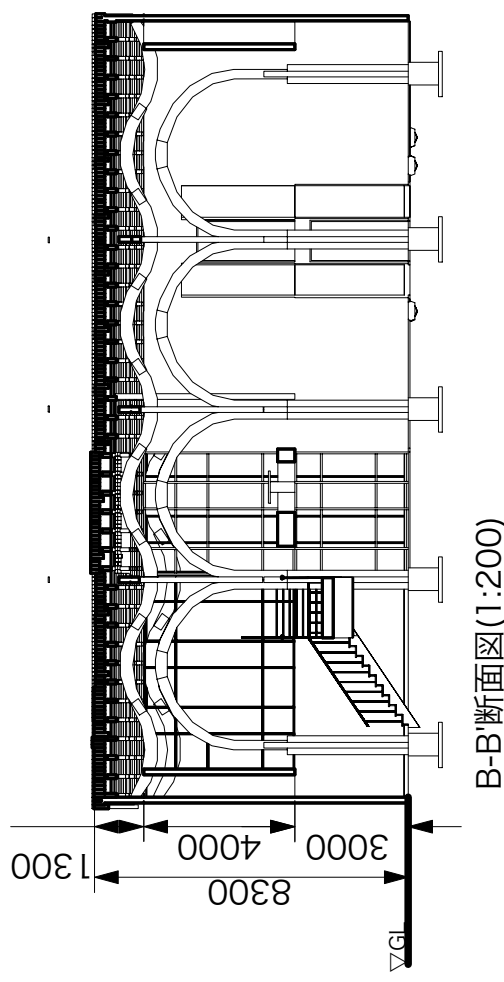
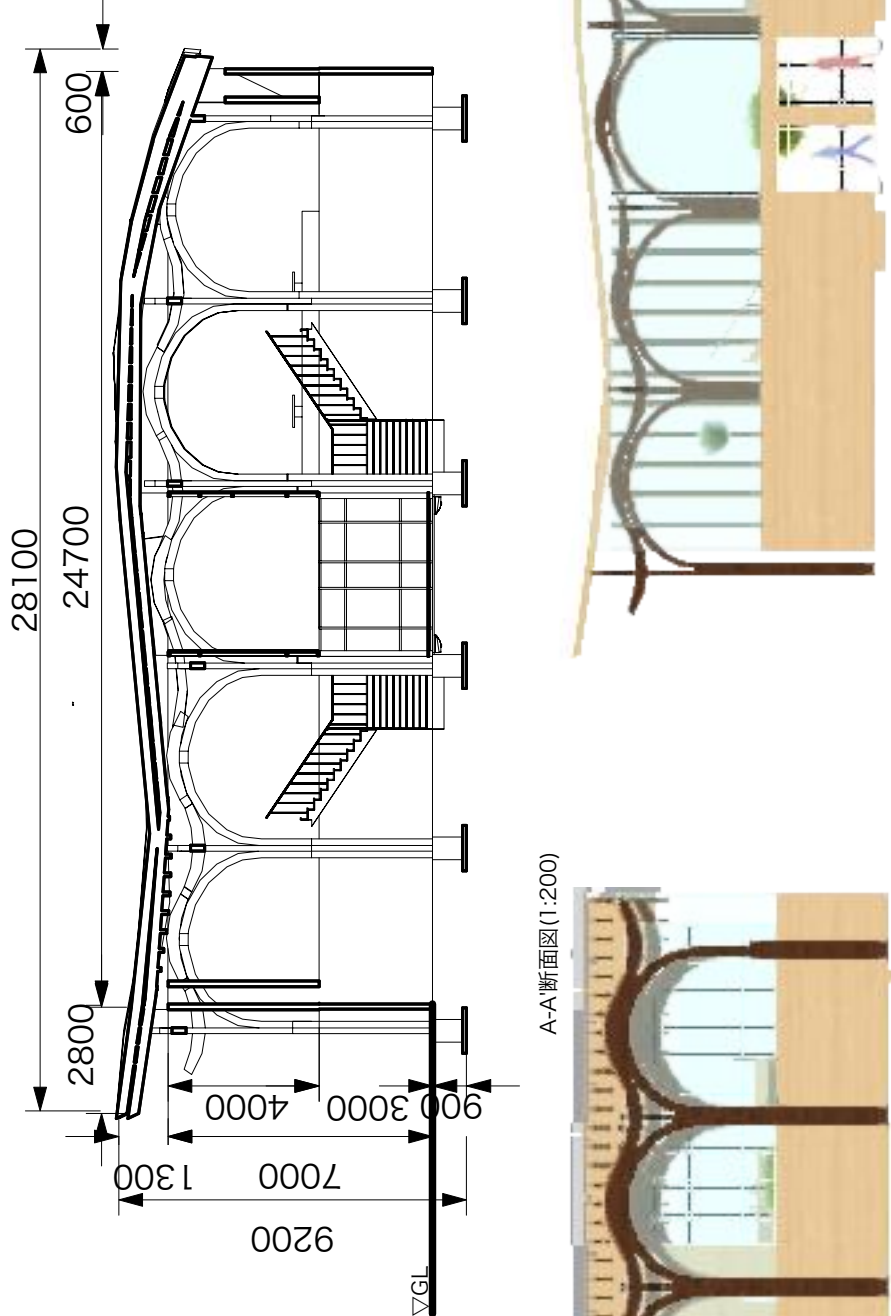
本材を使用し、オオアスビス皮で作り、外装に木を用いているが、コウキ造り鉄骨スペースの内装などには本材をほとんど用いていない。主要構造部材は、木製である。使用している事例がほとんどと見てもよい。また、大組・梁・見出し等の設計を木組みたての意匠でまとめた。この手の建築はその分、外壁を重量級骨で支えること、企業秘密を守るなどしなければならないことがある。また、木造組組し・木、美しいうまくあった。その分2階部分にはオオアスビス皮を採用し、木製の床材が見えるようにした。また、天井高も階高を上げて、2階を高くし、より美しい高きように工夫した。

前述にもあるが、メイヒは湾曲集材材の柱と梁で構成される木造。屋根も湾曲させ、垂木のせいを大きく取り垂木の流れる様子が見えるようにした。屋根は湾曲させるものの、従来オフィスビルなどの鉛直性に対抗するために

水平性を意識し高さが出過ぎないようにした。柱と家は、森の木々をイメージし、その上に葉っぱをイメージした重木がかかるようにした。

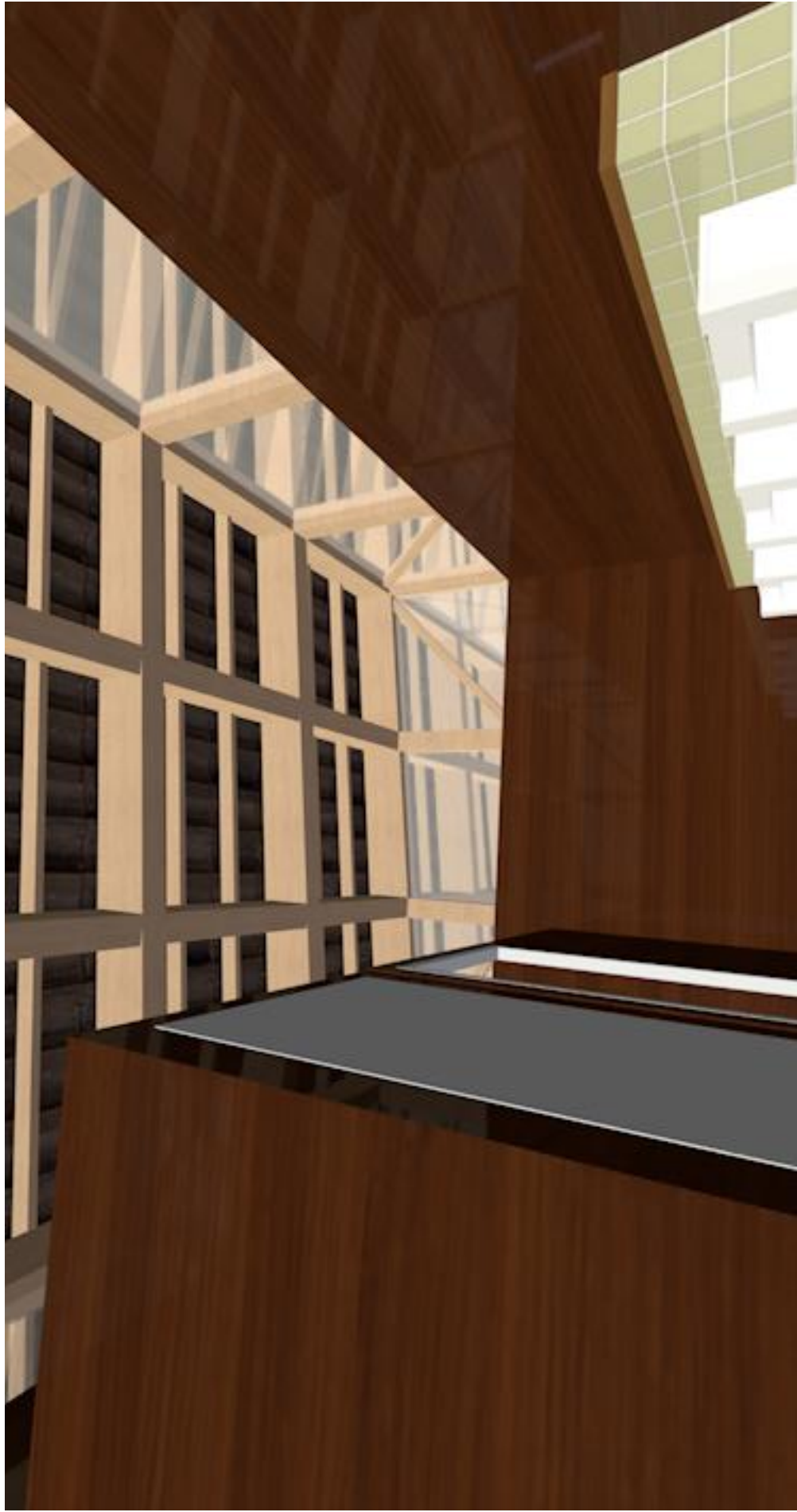
従来のスパンより短くてもいいとは言ってもある程度スパンが実現できるように集成材を採用した。基本的にはスパンは4.5Mで飛ばしている。

の高さを変えている。

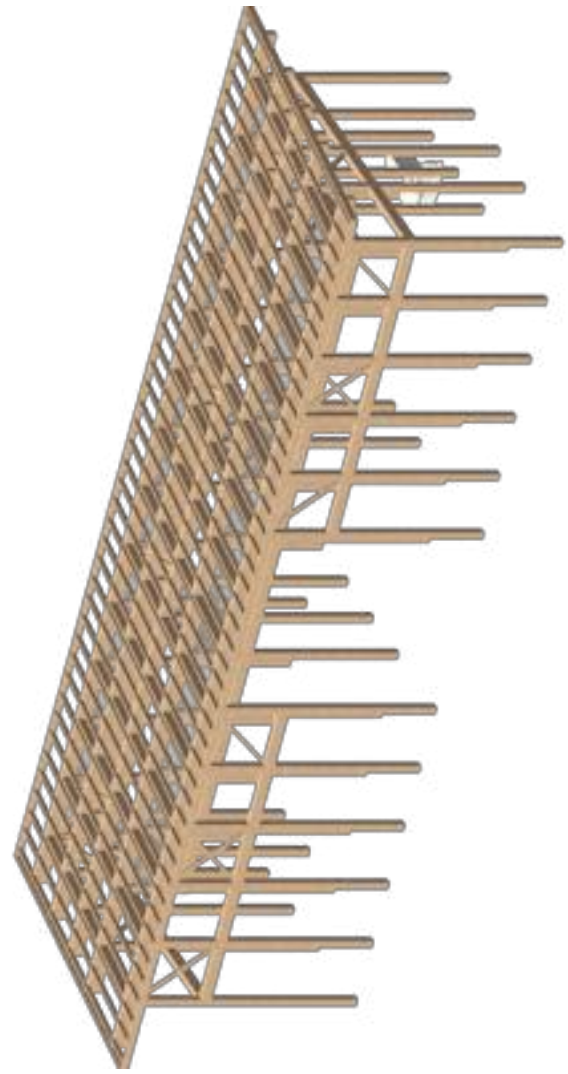


木張りの厠

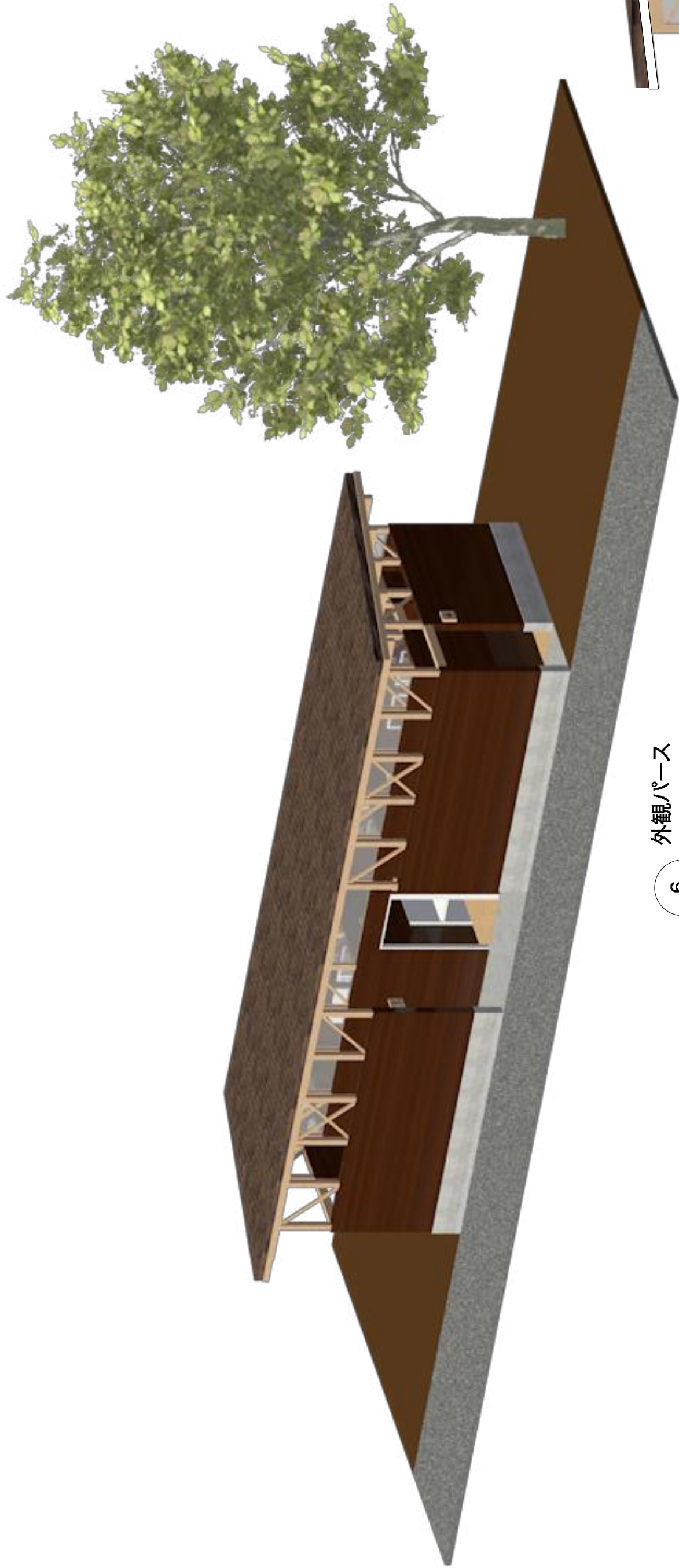
公衆トイレは老若男女が使用する施設で気軽に使えるものでなくてはならないが、よくある公衆トイレは薄暗い印象で使うのをためらってしまう。また、白い床や壁だと汚れが目立ち、より一層暗い印象を受ける。そこで、構造と内装に木を用いて、柔らかく、明るい空間を作ろうと考えた。天井は構造を表しとし、木の建物を身近に感じられるようにした。屋根と建物の間は隙間を開け、光が入り込むことで明るく、閉塞感を感じさせないトイレ空間とした。内装を木とすることでそれぞれが綺麗に使おうという気持ちになることも期待している。



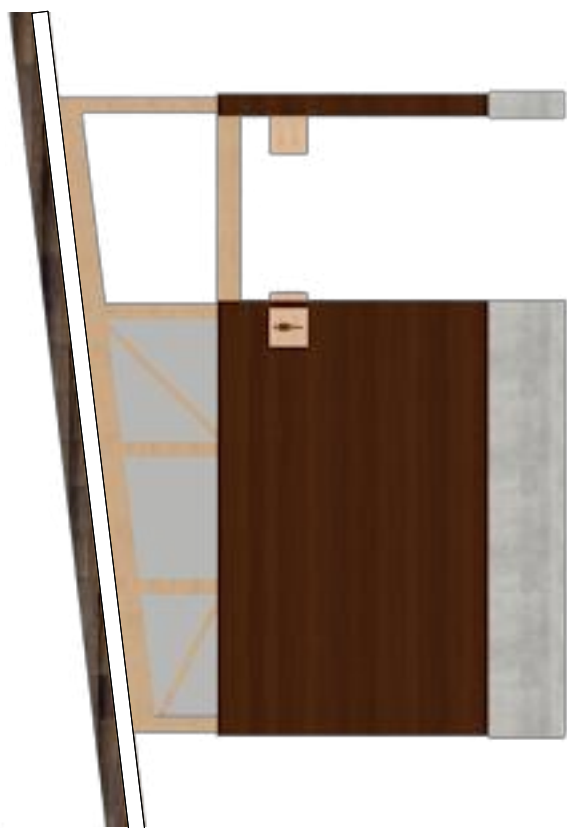
8 内観パース
縮尺: 1:200



7 構造
縮尺: 1:100



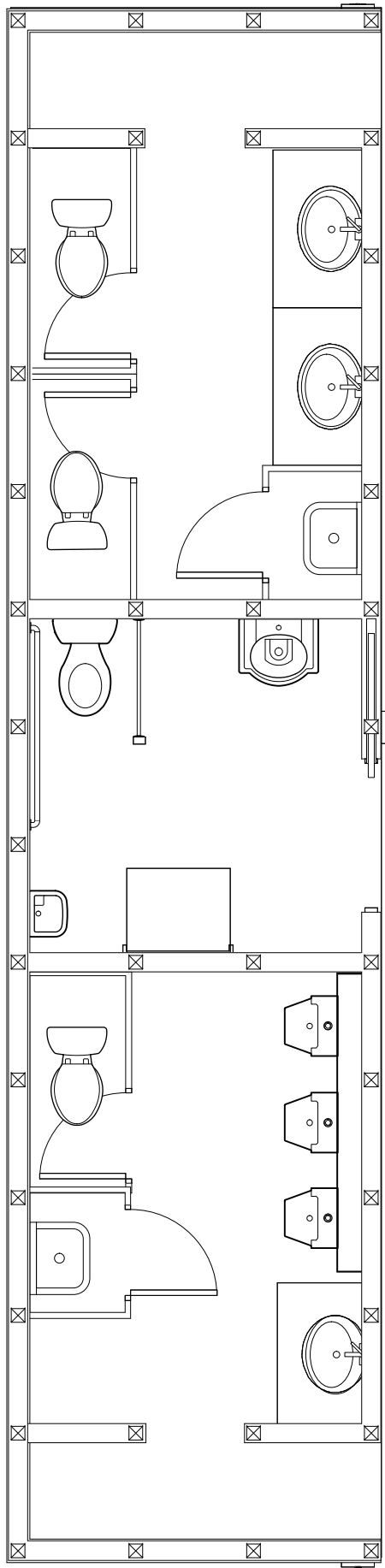
6 外観パース
縮尺: 1:75



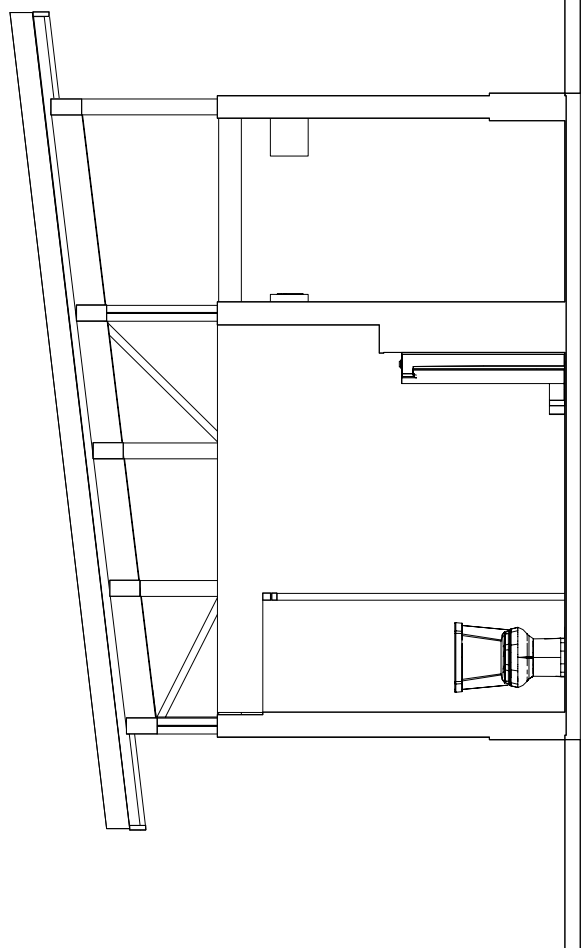
4 横面立面図
縮尺: 1:50



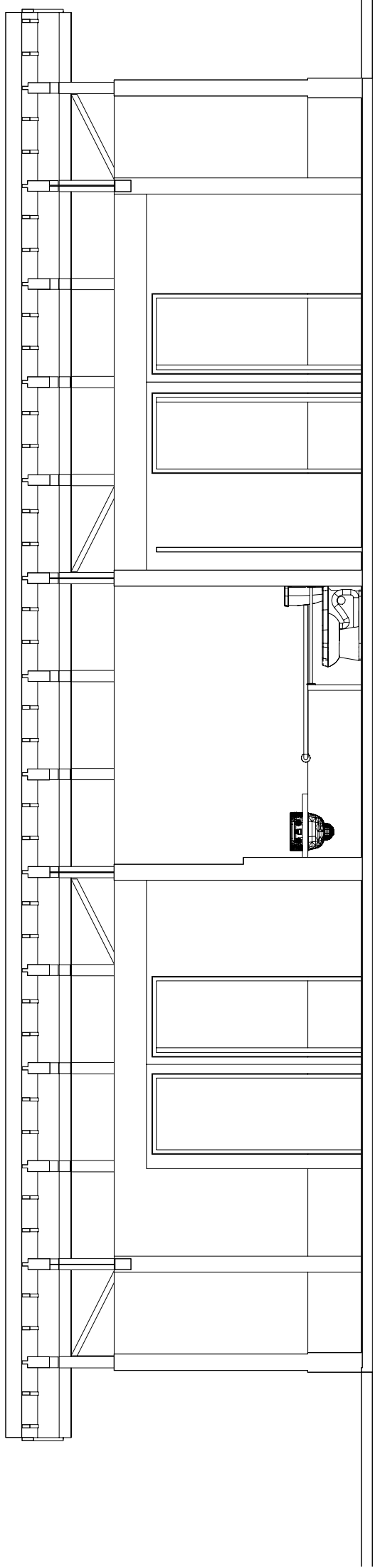
5 正面立面図
縮尺: 1:50



1 平面図
縮尺: 1:50



2 断面図
縮尺: 1:50



3 断面図
縮尺: 1:50

木材を使用した駐輪場



コンセプト

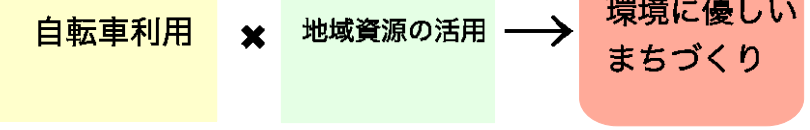
「自転車のあるまちづくり」

秋田県内では少子高齢化や若者の県外流出により著しい人口現状が起きている。しかし、新型コロナウイルスの影響によって外出自粛が起き、在宅ワークが増えたことで都会に住む人の考え方が変化してきており、都心離れや郊外志向の考えが強まっている。ここで、都会に住む人が秋田県内(由利本荘市)に来て興味を持ってもらい、最終的には住んでもらえるように秋田の良さをアピールするための建物を設計する。

また、近年地球温暖化によって、秋田県内でも冬の時期で降雪量が現象している。このことを逆手にとって、自転車を活用したまちづくりを考える。

由利本荘市は自然が豊かである。景色の綺麗な場所があるにも関わらず、他の県の人たちにはアピールできていないとこの町に住んでいて感じている。秋田県内の他の市町村でも知られていない景色の素敵な場所は存在していると考えている。そのため、観光できる箇所に駐輪場を設け、休憩スペースを設置することで、秋田県(由利本荘市)の良さをゆっくりとした時間の中で自分の肌で感じてもらいたいと考えている。

自転車をい用いることで、地球温暖化問題について少しは二酸化炭素の排出量を減らすことができるため環境に優しいまちづくりになるのではないかと考える。



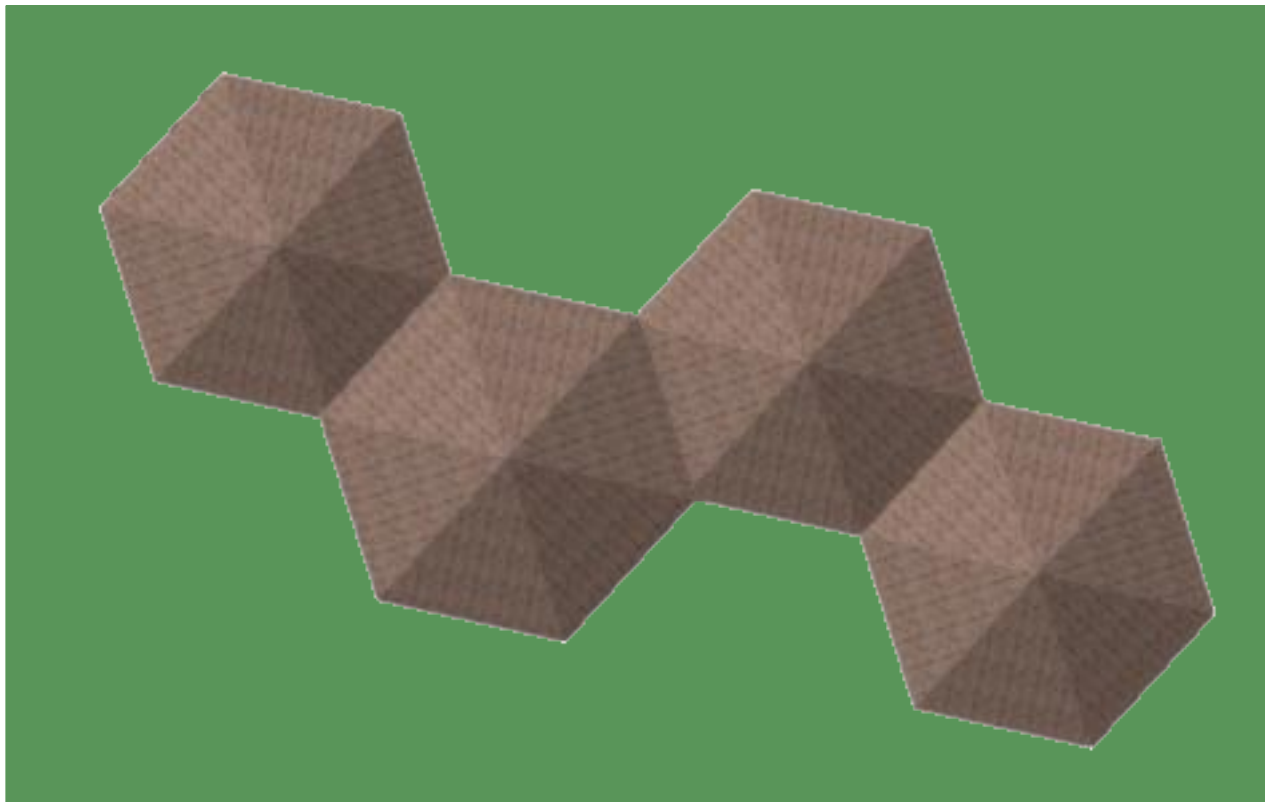
自転車活用による観光のメリット

- ①自ら希望するテーマのルートまたは目的地を自由に選択することができる
- ②健康的になる
- ③CO2の排出の削減ができ、環境にやさしい
- ④地域の景観・風・緑等の五感でスローに満喫可能、ふれあいの可能性がある
- ⑤気軽に空面に狭い走行空間と駐輪空間で目的地を回避できる
- ⑥観光空間が面的に広がり、隠れた地域資源の活用ができる



木材の活用方法

- ・秋田スギの活用
- 柱：丸太加工したものを使用
- その他の構造物：合板、LVL
- 利点
- ・腐材を抑えることができる
- ・秋田の良さを知ってもらうことができる
- ・接着剤を選ぶことで耐水性の高い板が使用できる



駐輪場の増設

敷地に関わらず多様な形に配置することが可能なため、どのような場所にも設置することが可能である。

学生のための駐輪場の活用方法

この建物は、形を六角形にすることで自由に組み合わせができる

大規模な駐輪場を作ることが可能
自転車自体が風や雨の影響を受けずに長く使用できるようになる



↑由利高原鉄道



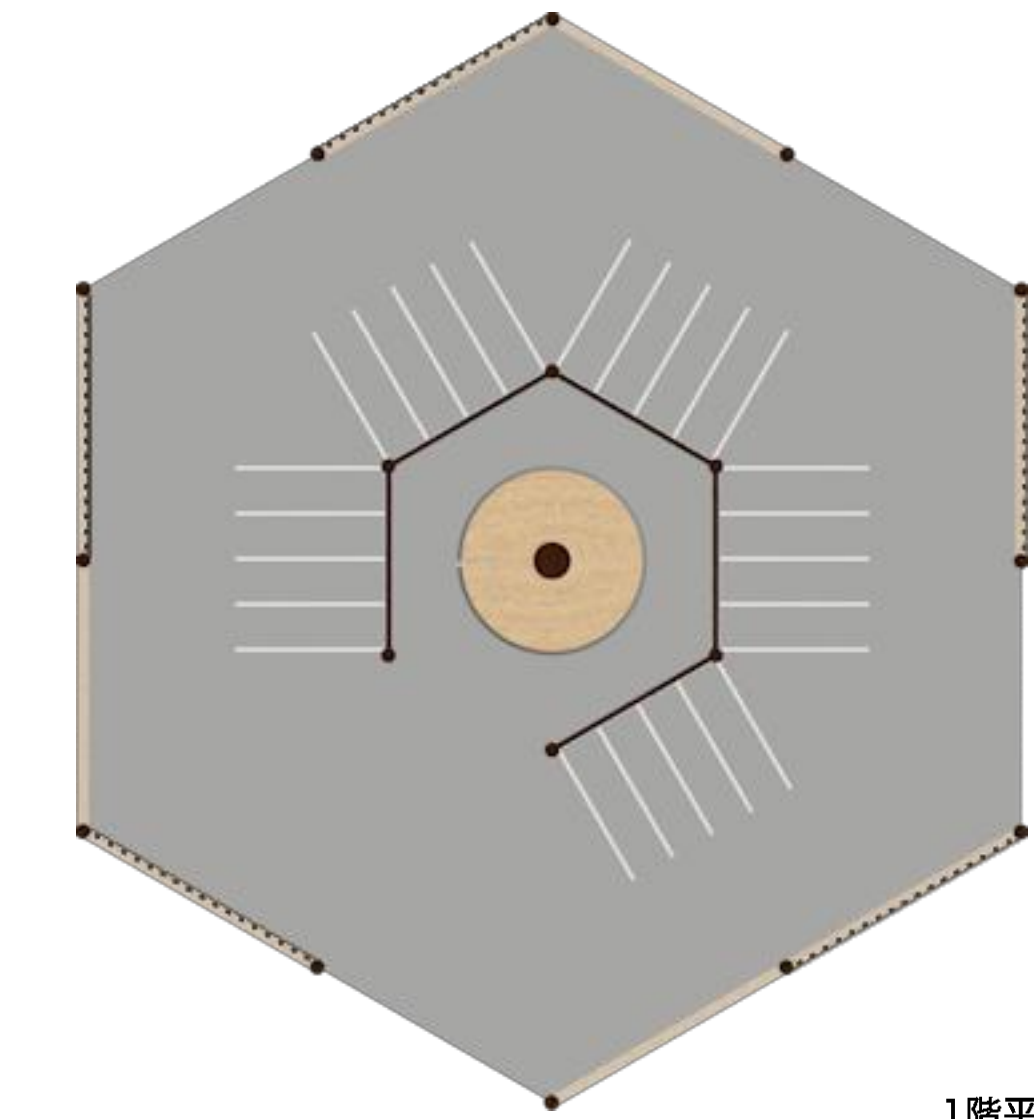
↑本荘マリーナ



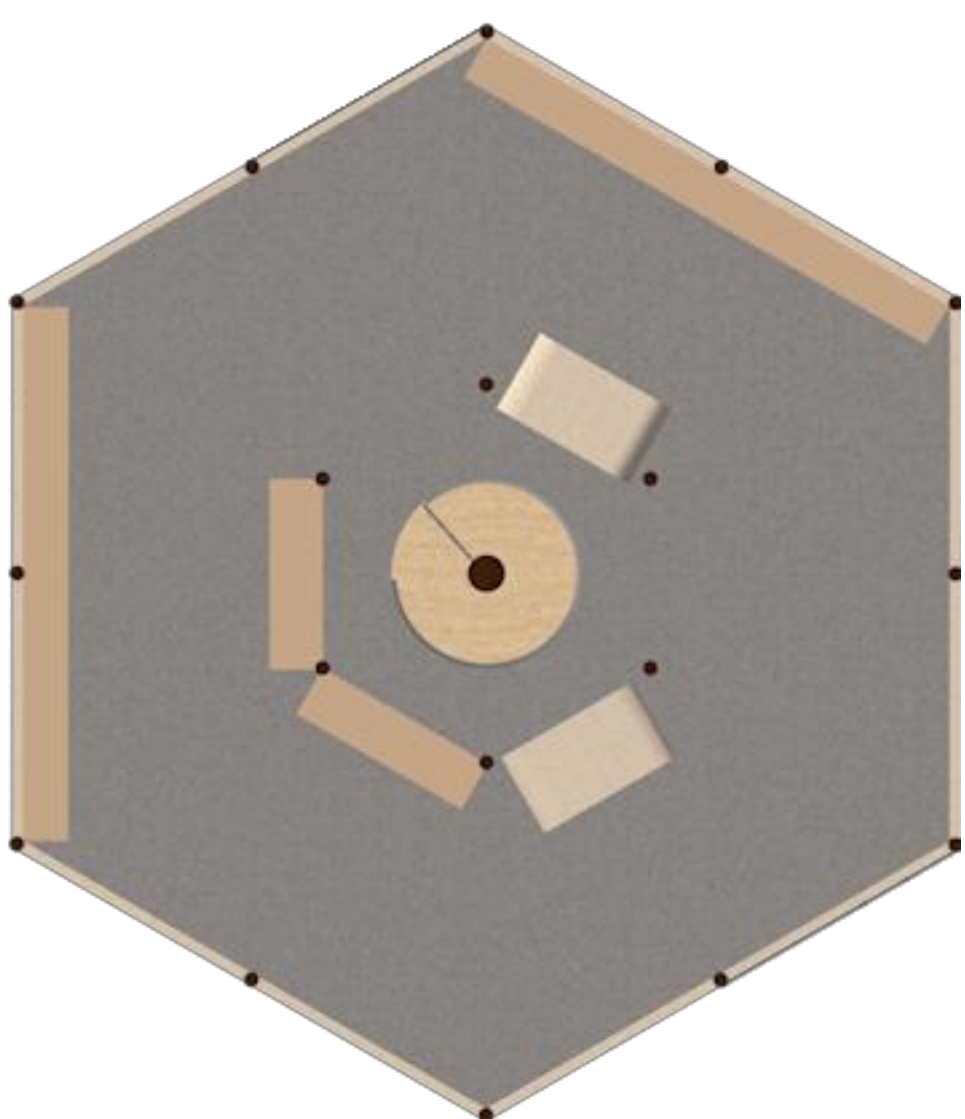
外に見える風景
縮尺: 1:150

休憩スペース

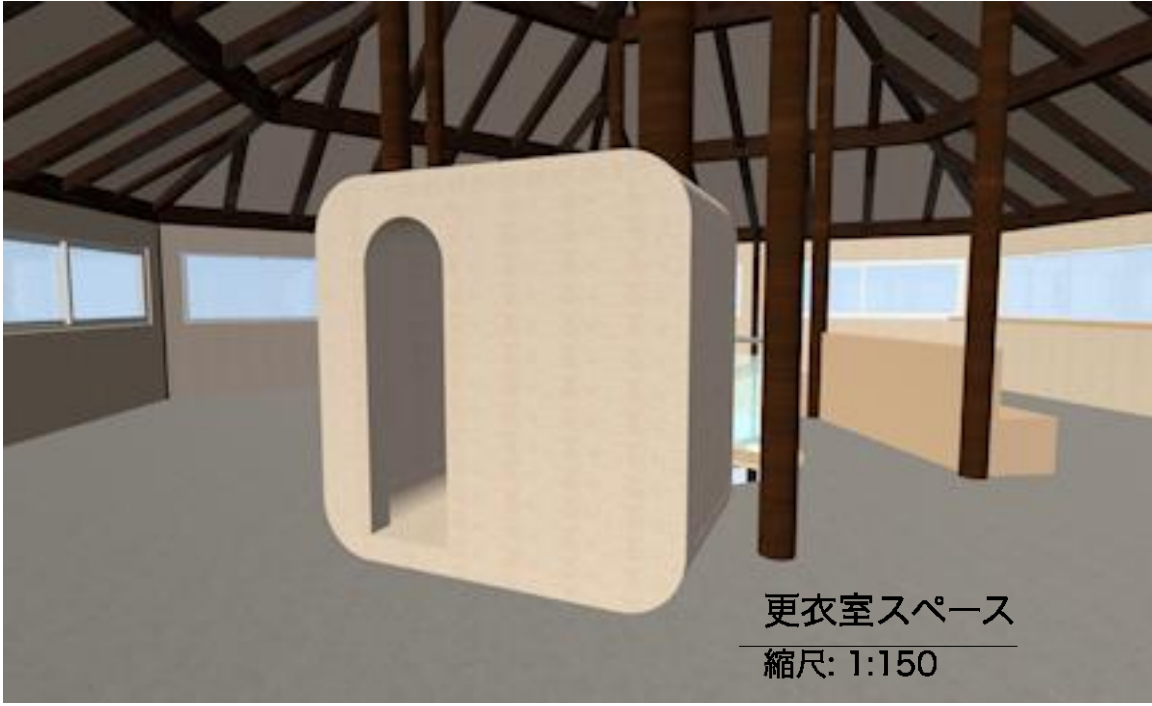
休憩スペースは2階にあるため、地面から高い場所から景色を眺めることが可能になっている。
秋田県は海も山もどちらもするため、いろんな箇所に駐輪場を設けることでさまざまな景色を観光に来た人は堪能することができる。
由利本荘市を例にすると海と山どちらもするため、本荘マリーナや由利高原鉄道が見える場所に置くことで良さが伝えることができるのではないかと思います。



1階平面図
縮尺: 1:100



2階平面図
縮尺: 1:100



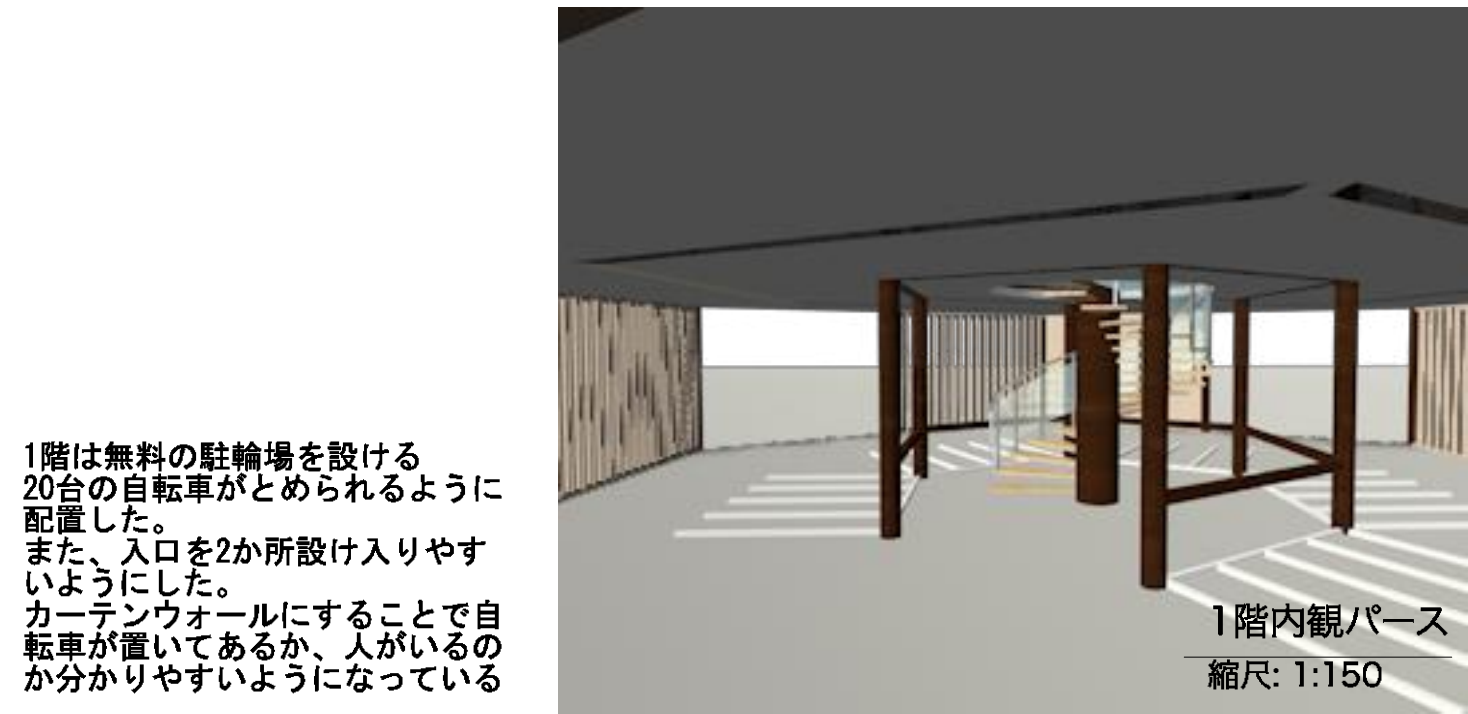
更衣室スペース
縮尺: 1:150

更衣室

2階にある更衣室は象潟の道の駅にも設置されている授乳室「mamaro」を参考にスーパー橋円型の更衣室を設置した。
更衣室を設けることで、自転車を漕いだ後は汗をかいてしまうため、着替える場所を2つ設けた。個室になっているため、人の目も気にしないで着替えることが可能である。

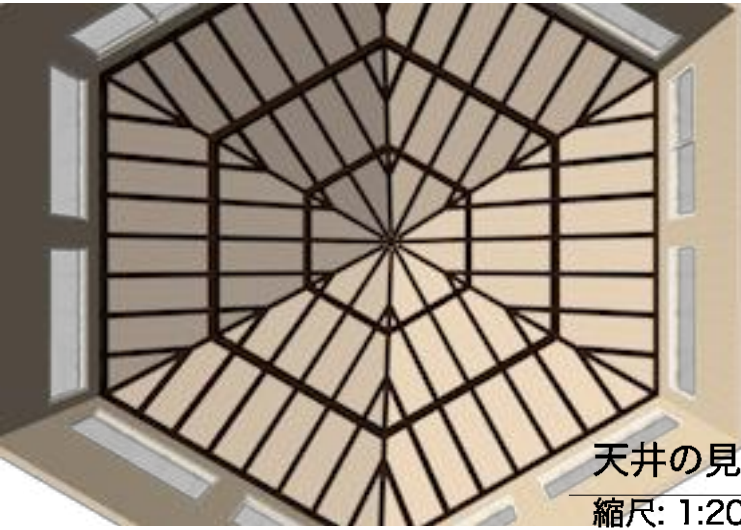


↑設置されている授乳室「mamaro」



1階は無料の駐輪場を設ける20台の自転車がとめられるように配置した。
また、入口を2か所設け入りやすいようにした。
カーテンウォールにすることで自転車が置いてあるか、人がいるのが分かりやすいようになっている

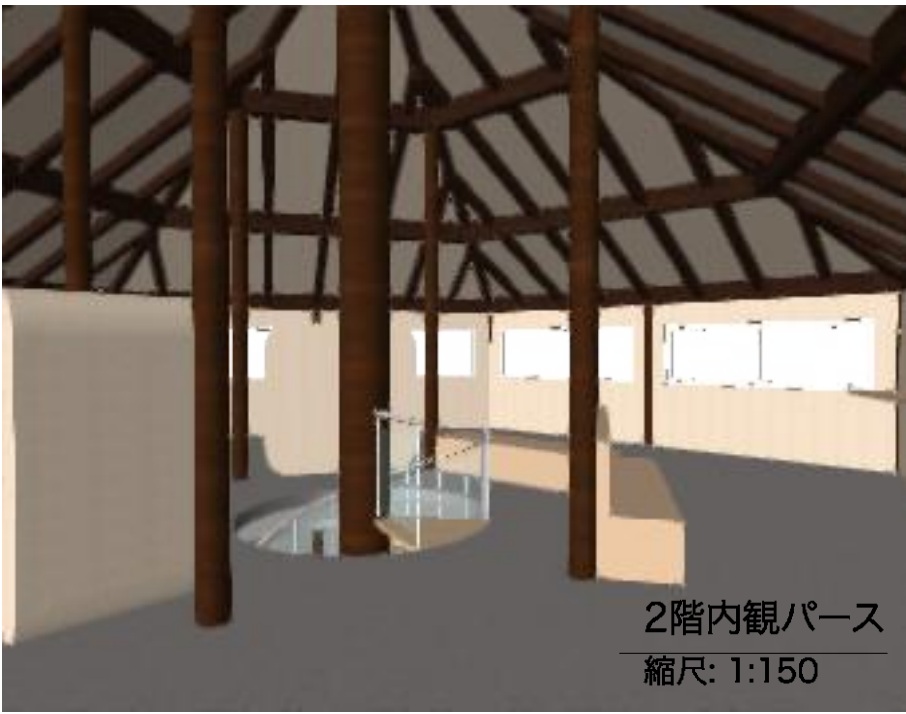
1階内観パース
縮尺: 1:150



天井の見え方
縮尺: 1:200

天井はあえて梁を出して、木の存在感を出した

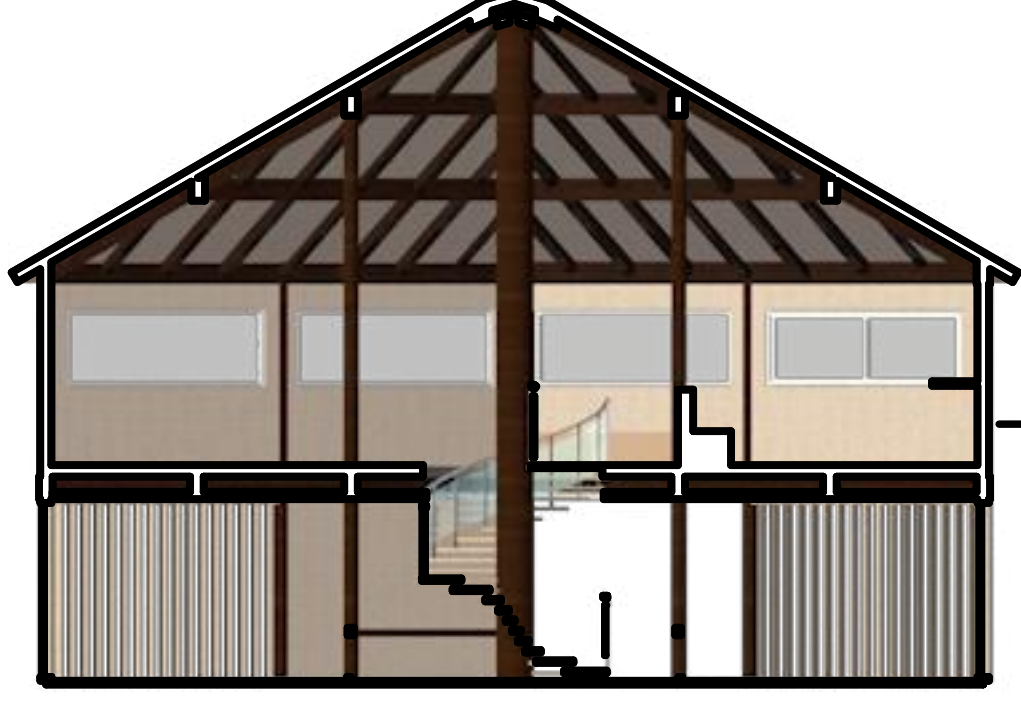
2階は休憩スペース
自転車を漕いで、疲れた際に使用できるようにした
また、由利本荘市の景色を一望できる場所に配置し、由利本荘の自然の豊かさをアピールできるようにした



2階内観パース
縮尺: 1:150



平面図
縮尺: 1:100



断面図
縮尺: 1:100

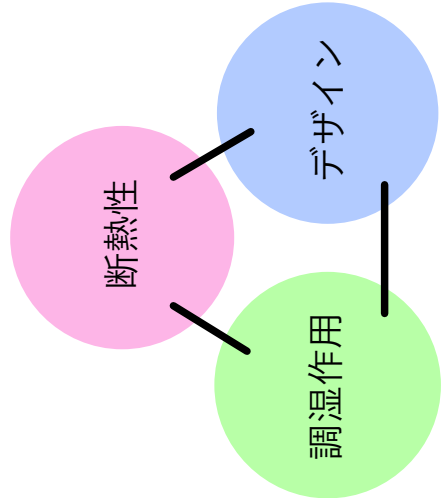
東京森都心

0 1 設計主旨

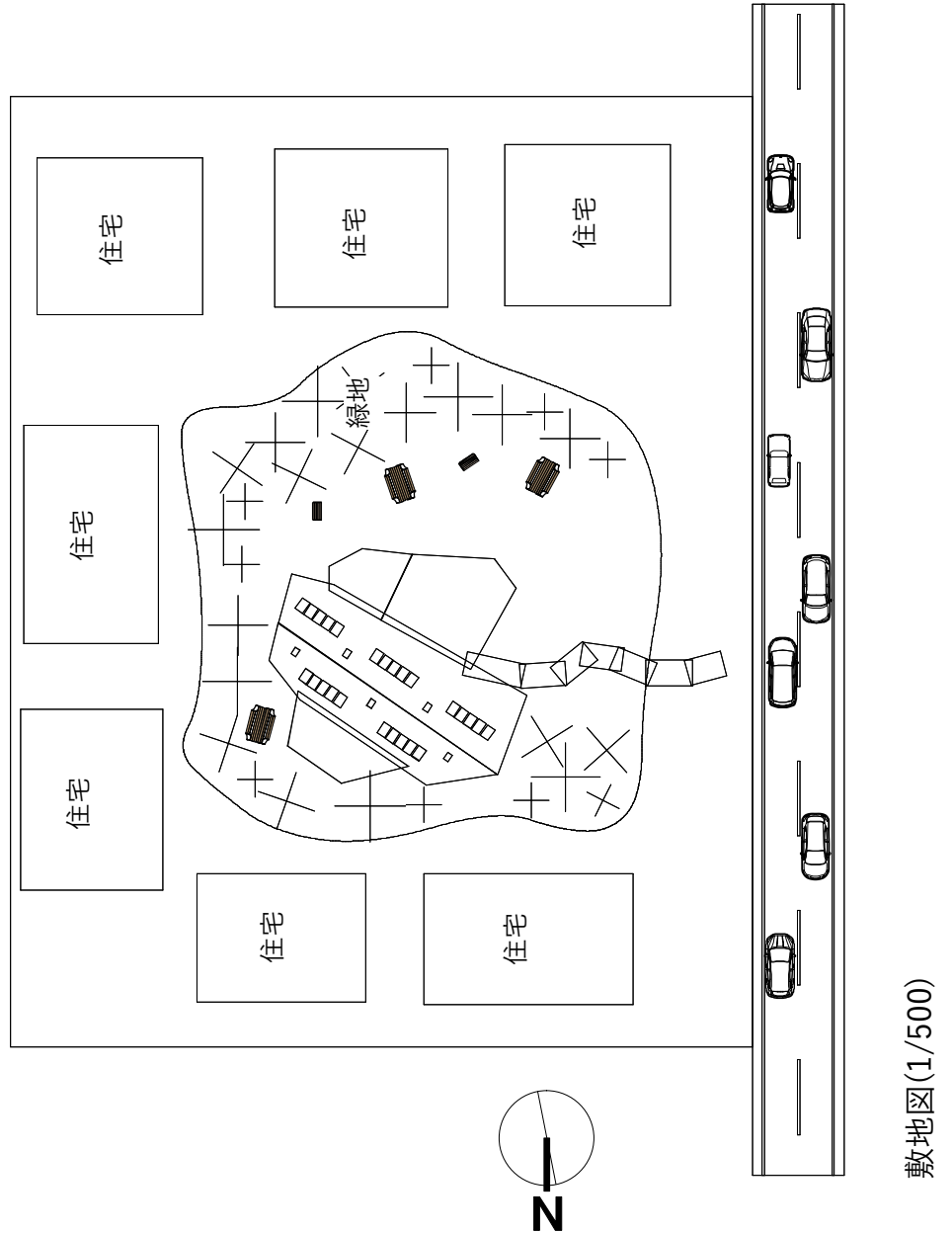
- ・所在地：東京都心部、住宅地を想定
- ・建築物：ミュージアム及びその周辺の緑地
- ・コンセプト：新型コロナウイルスが流行している現代においては、沢山の来場者を詰め込むような展示はできないと考え、また、本来のミュージアムとは、ゆったりと時間を確保でき、個人個人が芸術作品と向き合える場所なのではないだろうか。イベント時のみの一過性、一部の人々の盛り上がりだけでなく、そこに暮らしている人々とミュージアムとの関係について考えることで、アートイベントに過度に依存しない、芸術とまちとの日常的な関係を築くことが可能である。
- 加えて、東京都などの都心部で自然を身近に感じられたいと考え設計を試みた。また、ミュージアムだけでなく周辺の緑地も計画することで、ミュージアムを目的として訪れる人だけでなく自然の中で癒されたい人や交流の場としても使用することができると考える。
- ・構造：木造（スギ材）、ベタ基礎

0 2 スギ材を使用するメリット

- ・断熱性：スギは空気を多く含むため断熱性に優れ、冬場も比較的暖かい
→効果的な暖房が図れる
- ・調湿作用：スギは湿気を吸収し排出してくれるため、夏場もしじめじしない
→展示する作品の劣化を防ぐことができる
- ・デザイン：木材の質感はあたたかみを与えてくれる



0 3 敷地図・平面図・断面図

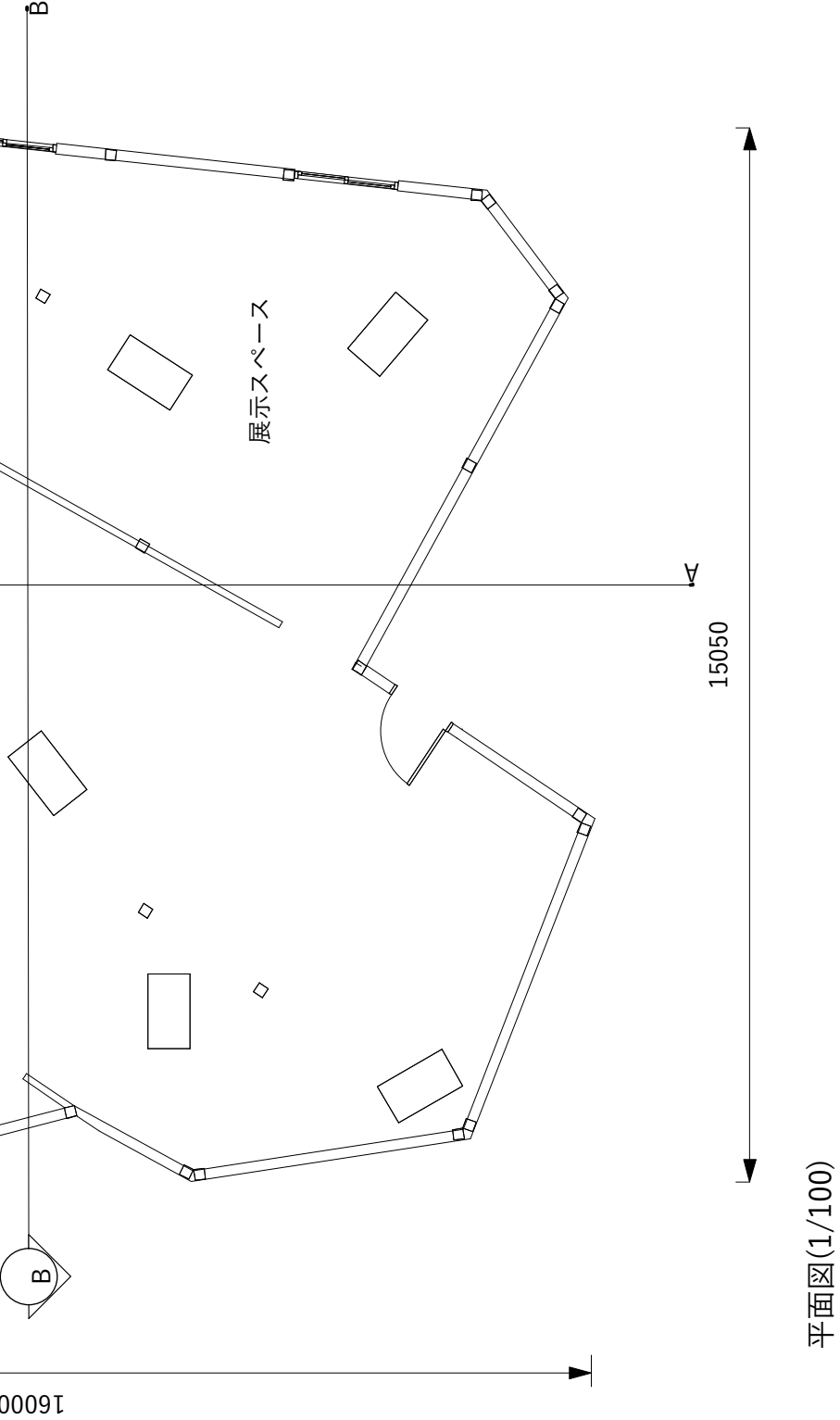


AA断面図(1/100)

BB断面図(1/100)

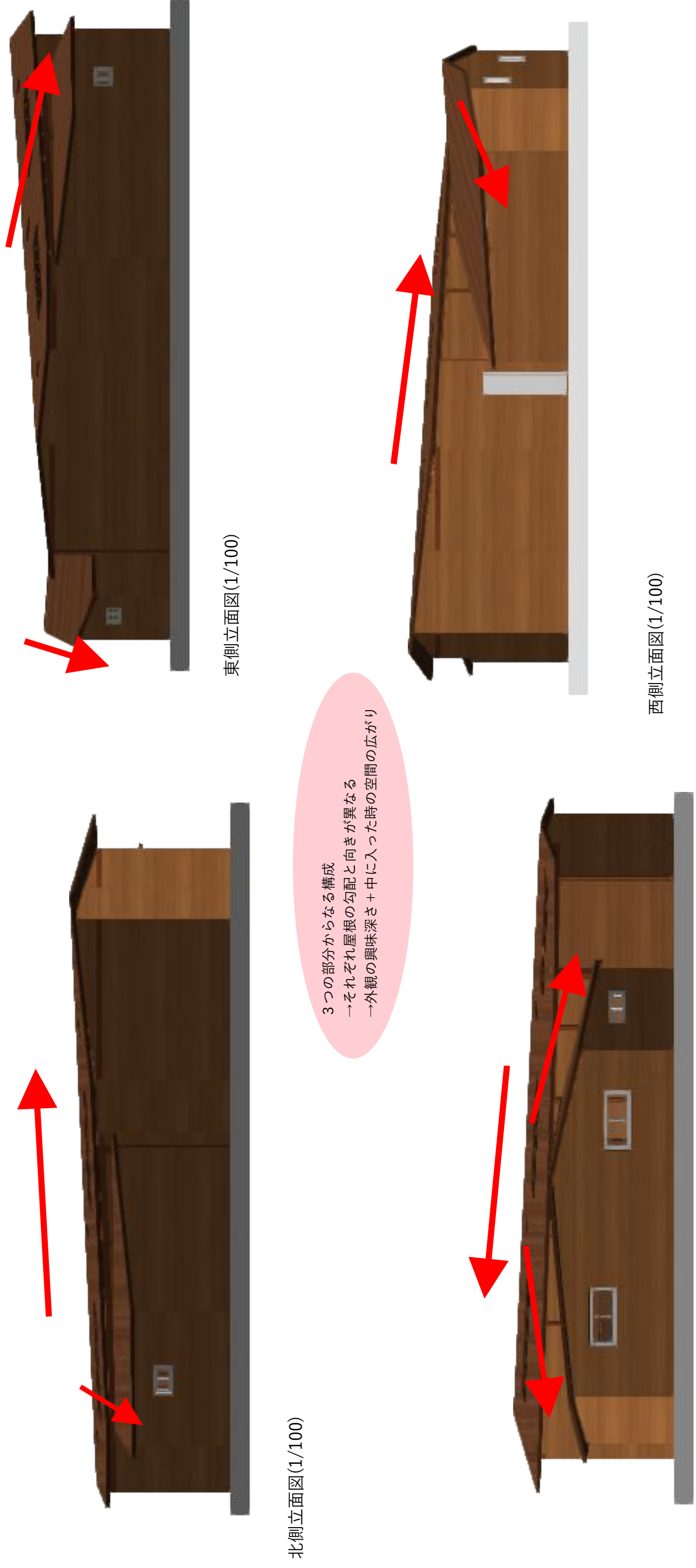
0 5 屋根架構と柱による空間構成

木の温かみをより感じることができる
トップライトによる採光+屋根架構-時間とともに変化する影
訪れる時間によって異なる内部空間を楽しむことができる



平面図(1/100)

0 4 屋根勾配と視覚的效果

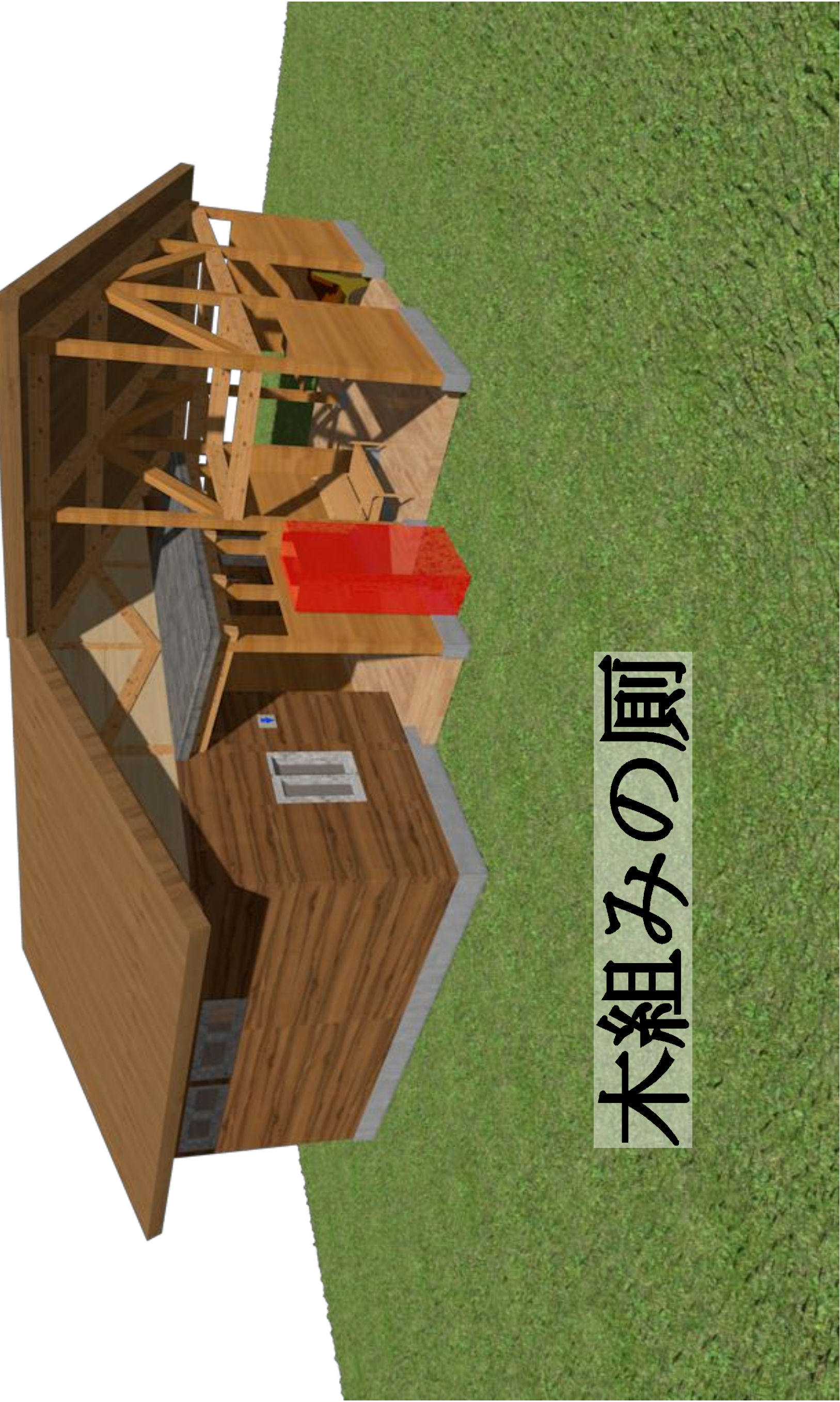


3つの部分からなる構成
→それぞれ屋根の勾配と向きが異なる
→外観の興味深さ+中に入った時の空間の広がり

0 6 周辺緑地

テーブル・イス・ベンチを配置し、
自然を感じながら過ごせる空間をつ
くった

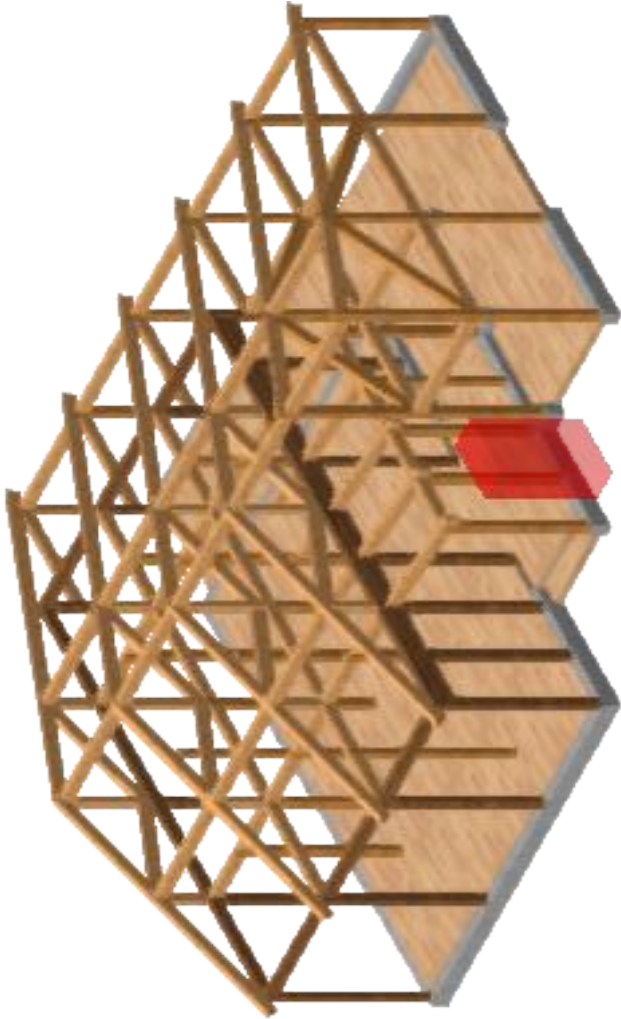




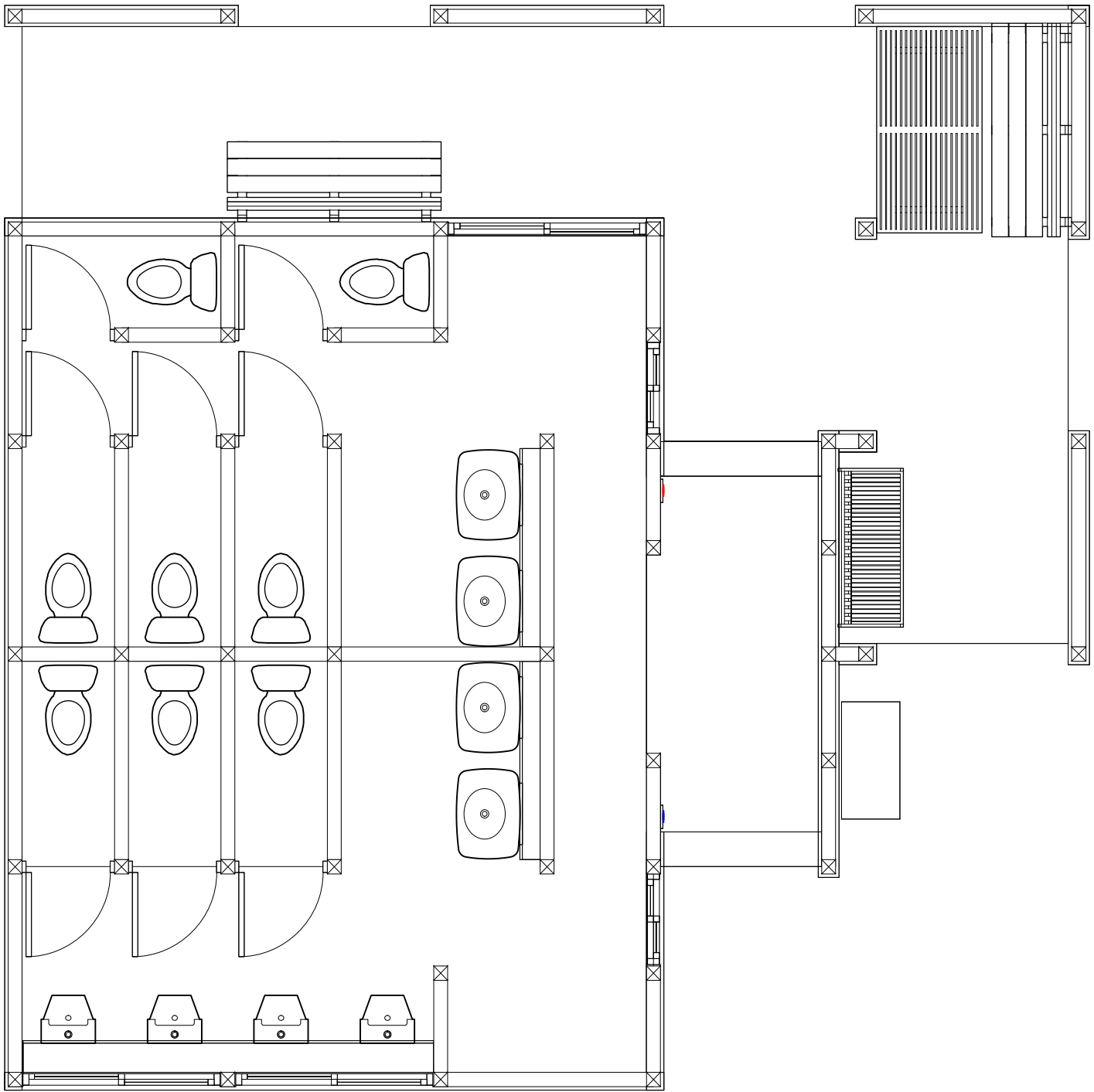
木組みの廁

●設計概要

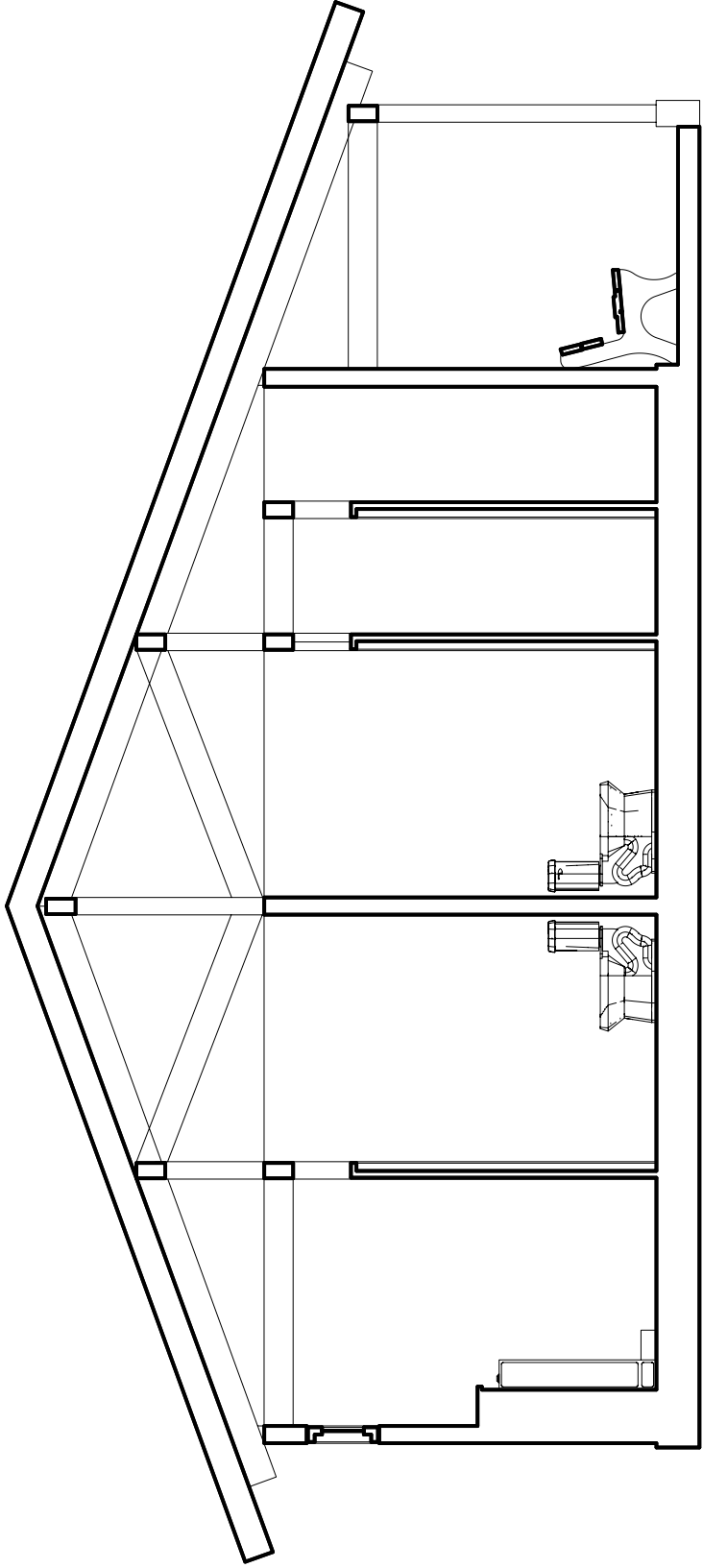
トイレという建築物は基本的に用を足すただけに使用されそれ以上の価値は求められないため、トイレを建築として見て欲しくこの設計を考えた。天井のトラス梁が特徴的であり、休憩スペースが併設されているため木特有の香りや色に興味をもち、木の良さを知ってもらいたい。



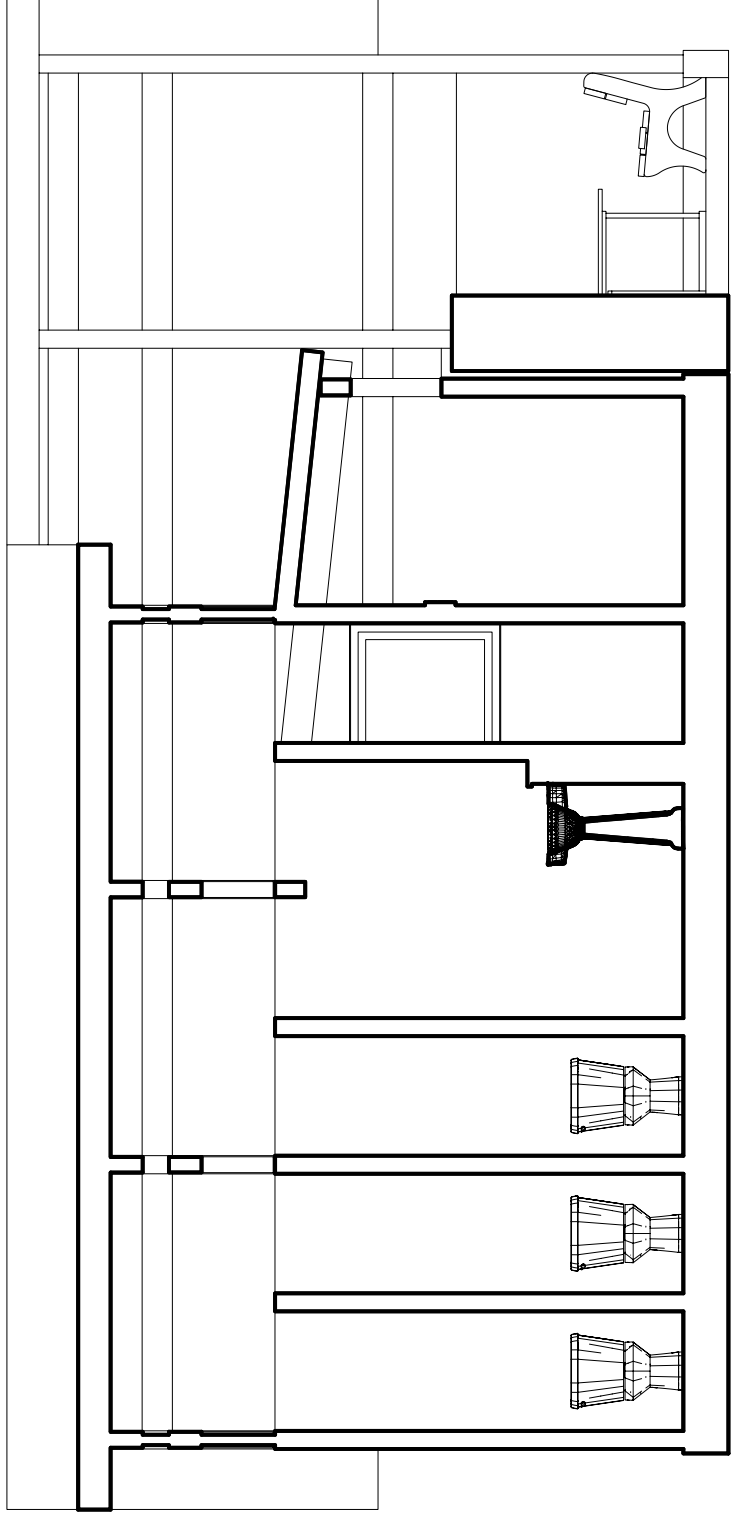
4



2 平面図 縮尺: 1:50



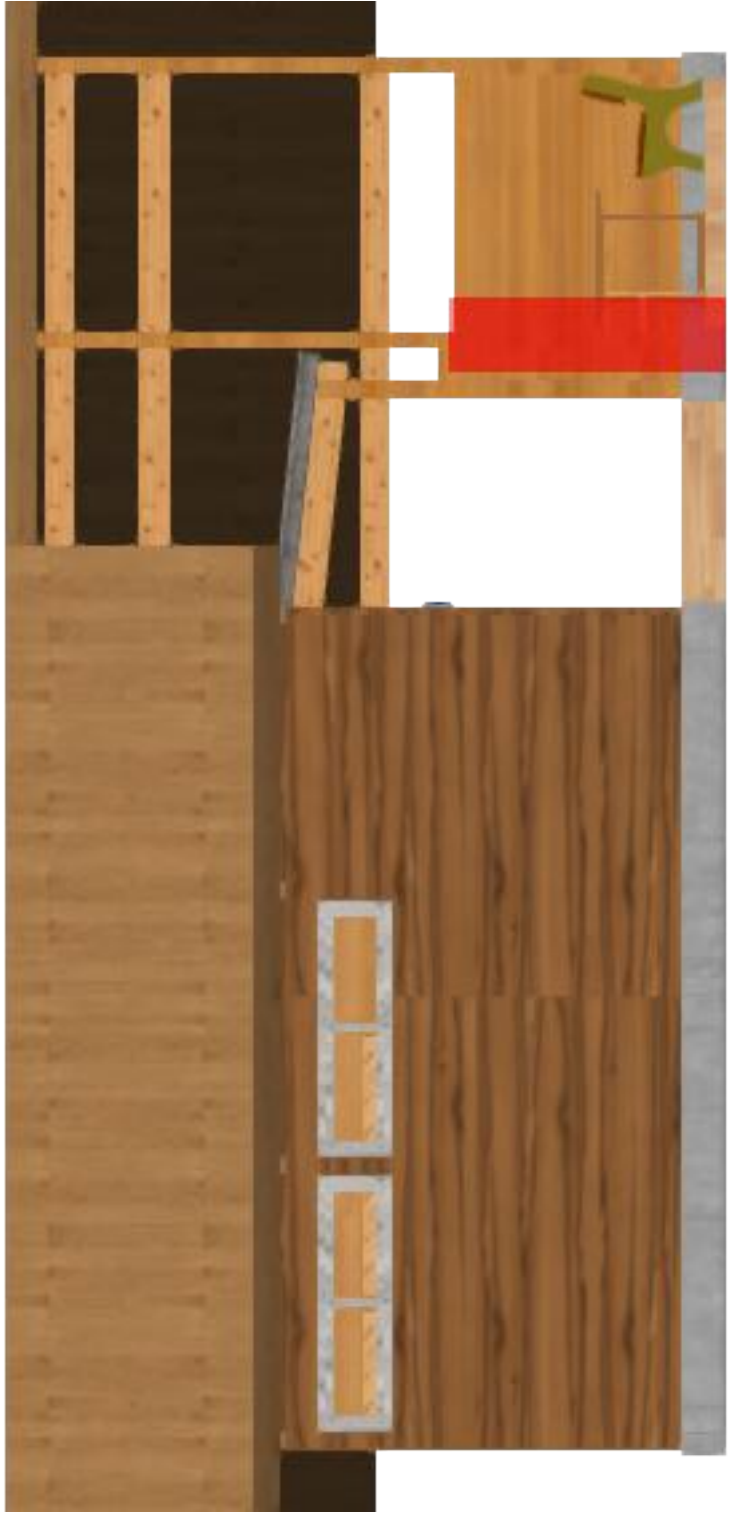
3 南北断面図 縮尺: 1:50



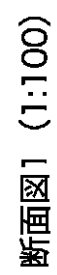
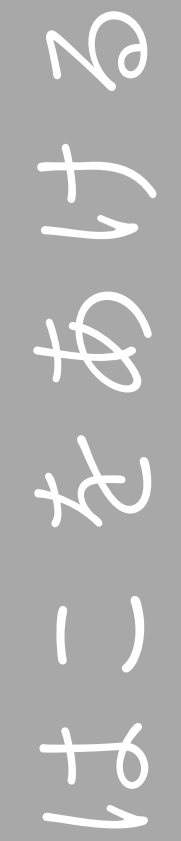
4 東西断面図 縮尺: 1:50



5 南側立面図 縮尺: 1:50

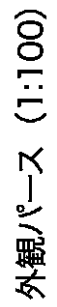


6 西側立面図 縮尺: 1:50



格子を通して外側を見る

② イメージ設置



コンセプト【観光客に秋田の魅力を伝える】
観光客など秋田に訪れた際に目に留まる建築物かつ、誰もが利用できる建築物を提案したい。
そこで多くの人が毎日利用するであろう秋田駅の構内に設置する公衆トイレを考えた。

ー 秋田県産スギとその特性を活かす ー

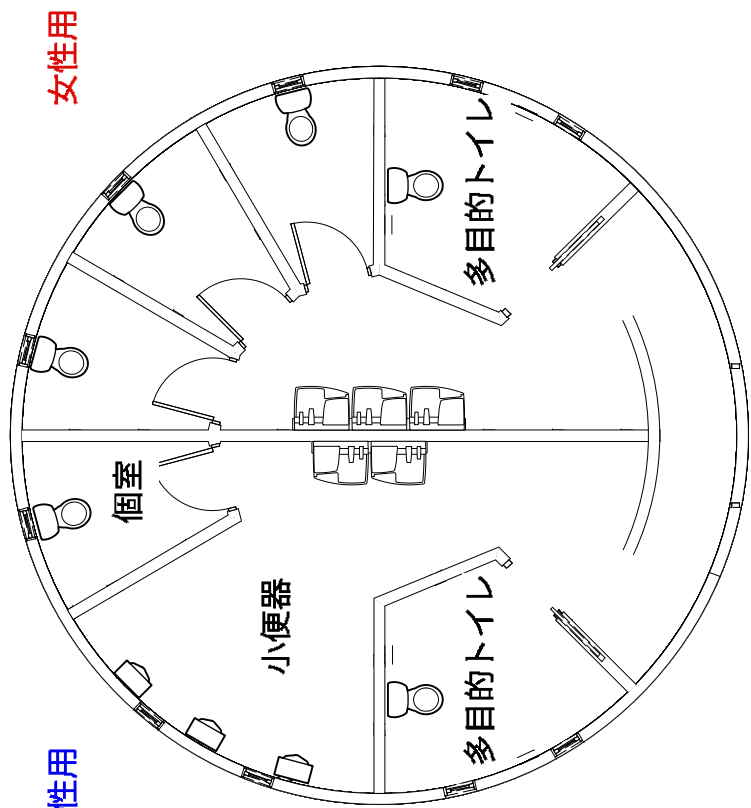
スギには強い耐腐蝕力があり、リラクゼーション効果もある。
その中でも秋田スギは香道のスギに比べ、見た目が美しく、無臭・無臭気な香りで、
構造的にも強く、腐りにくいという特徴がある為効果を最大限に活かす。:

ー スギによる消臭効果と癒しの空間 ー

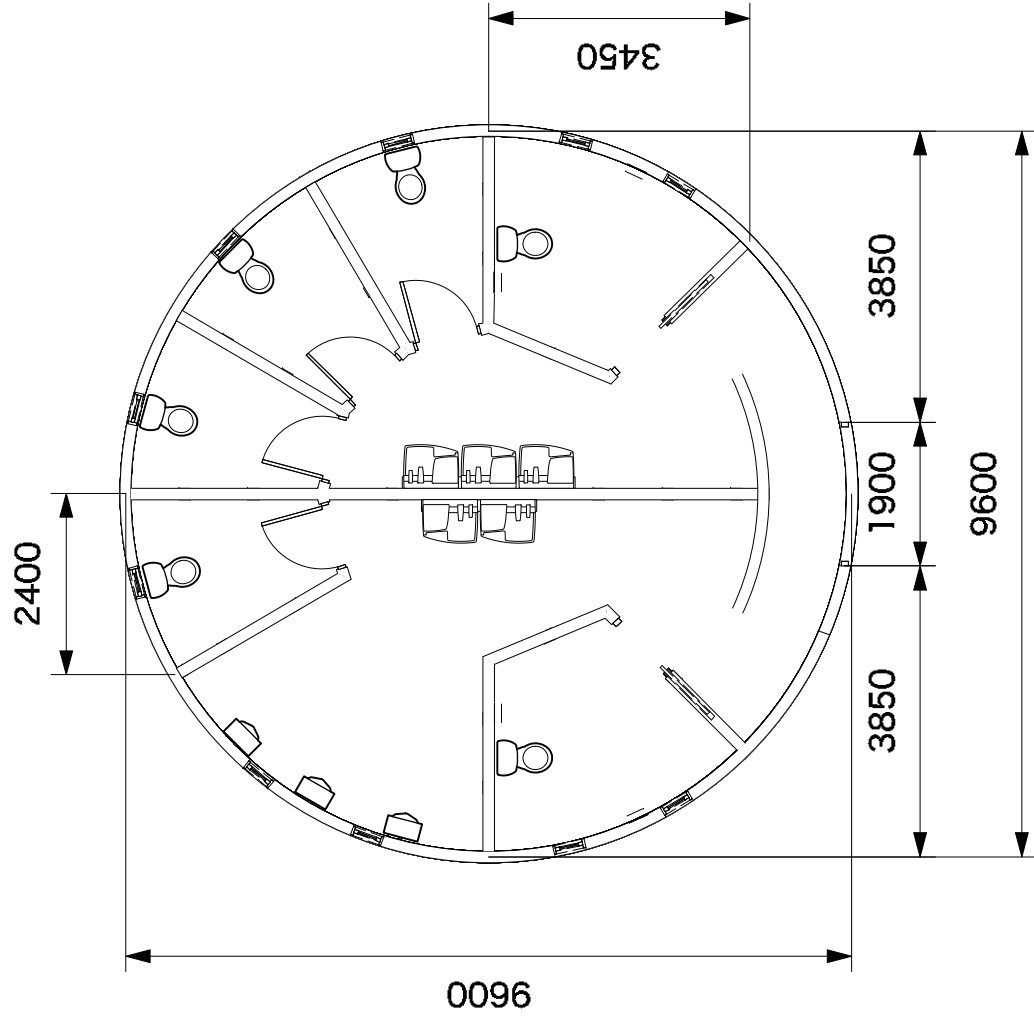
特徴のひとつに消臭効果が挙げられている。
匂いの問題をスギ自身の香りで和らげ、それと同時にリラクセス効果を
引き出し、何處でもここを利用したいと思わせる空間づくりを目指す。

ー 秋田の名産品『曲げわっぱ』をモチーフに ー

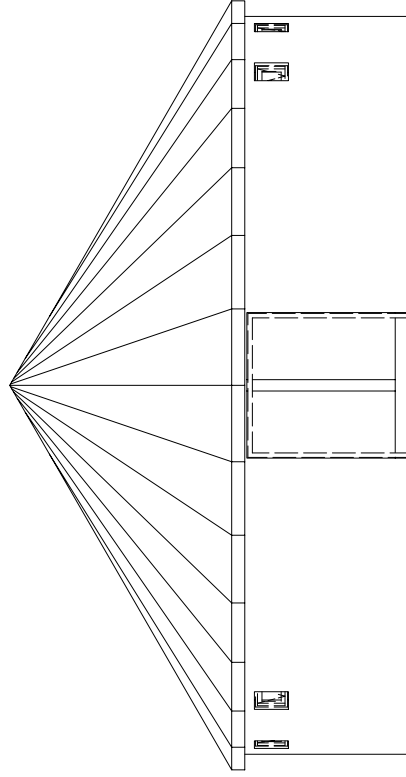
秋田県産スギで作られている名産品に曲げわっぱがある。
建物全体を曲げわっぱをイメージして作られた円形の構造にし、
建物全体を曲げわっぱのイメージで統一し、自然の素材を活かす。
また、曲げわっぱは、自然の素材を活かすだけでなく、
様々な人が利用可能になっている。



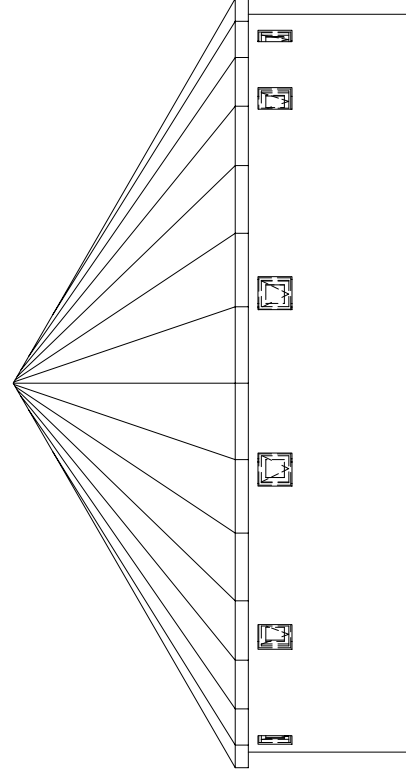
室内配置図 1/100



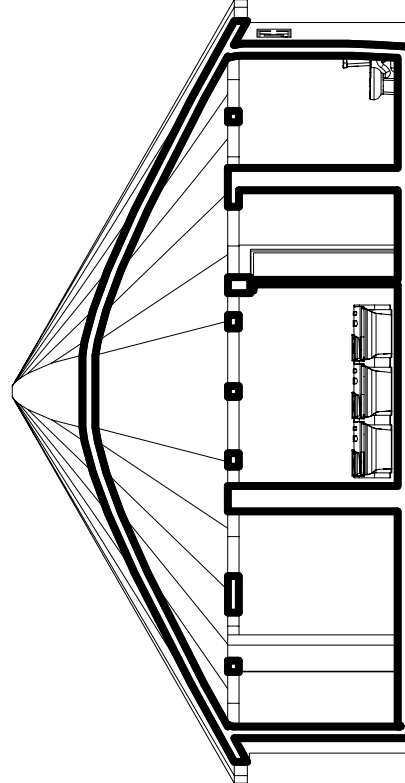
平面図 1/100



立面図（正面） 1/100



立面図（後ろ） 1/100

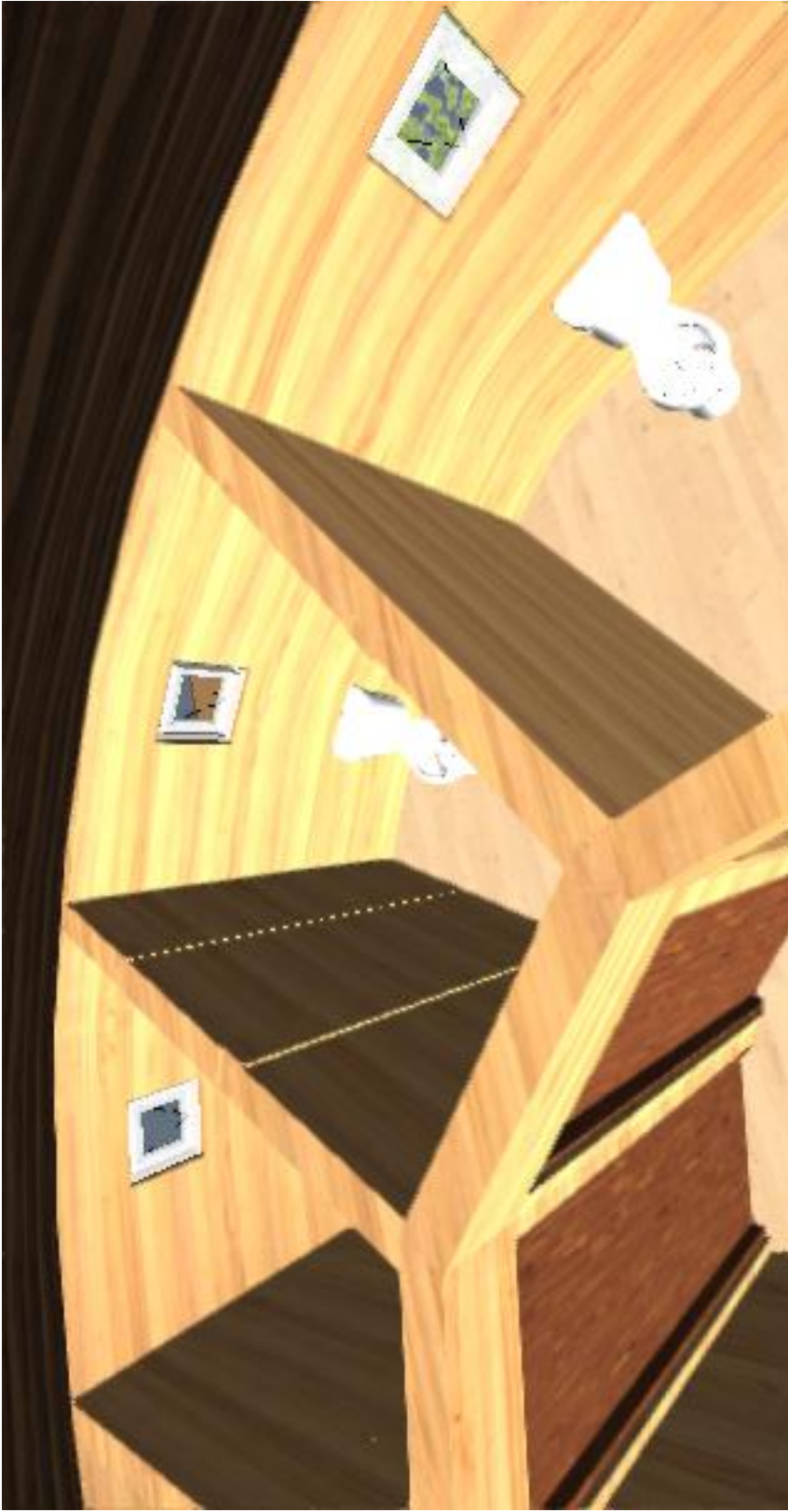


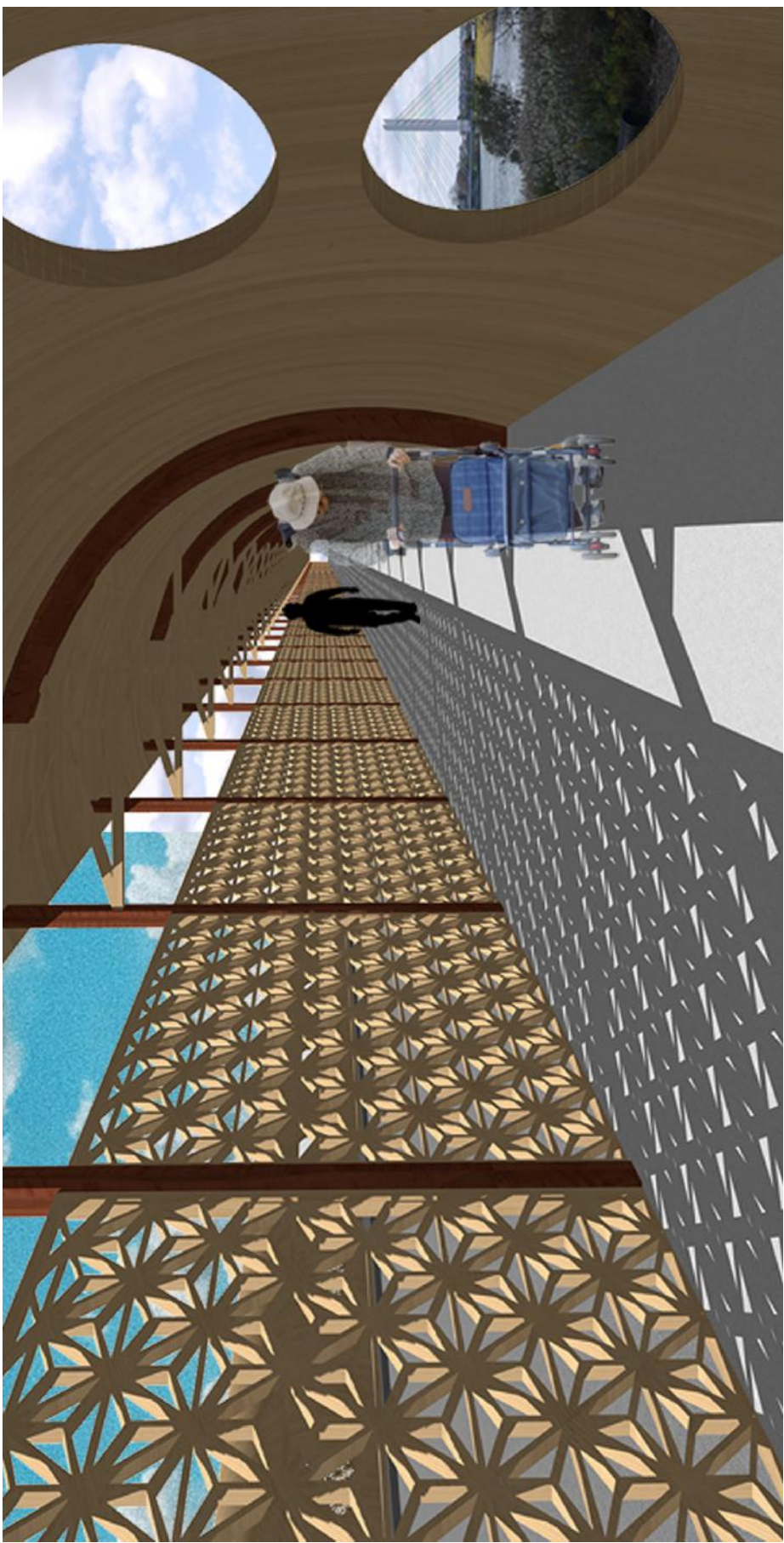
断面図 1/100



パース 1/50

秋田の中心地に 来ても自然が感じられるように
トイレ周辺は植物で囲むことでより癒しの空間を演出





風と雪と街と人

土木という文字は、「土」と「木」からなる。公共空間に木を添える提案である。
東北の自然は激しく、目新しい。しかし大からで、愉快である。現在の「飛鳥大橋」の在り方に疑問を持っていた私は、厳しい冬はシェルターのように人を守り、春や夏、秋は季節の風を感じながら景色を楽しめるような地域に相違した建築物を提案する。

Site

飛鳥大橋（秋田県由利本荘市 / 千吉川）



現在の橋の様子

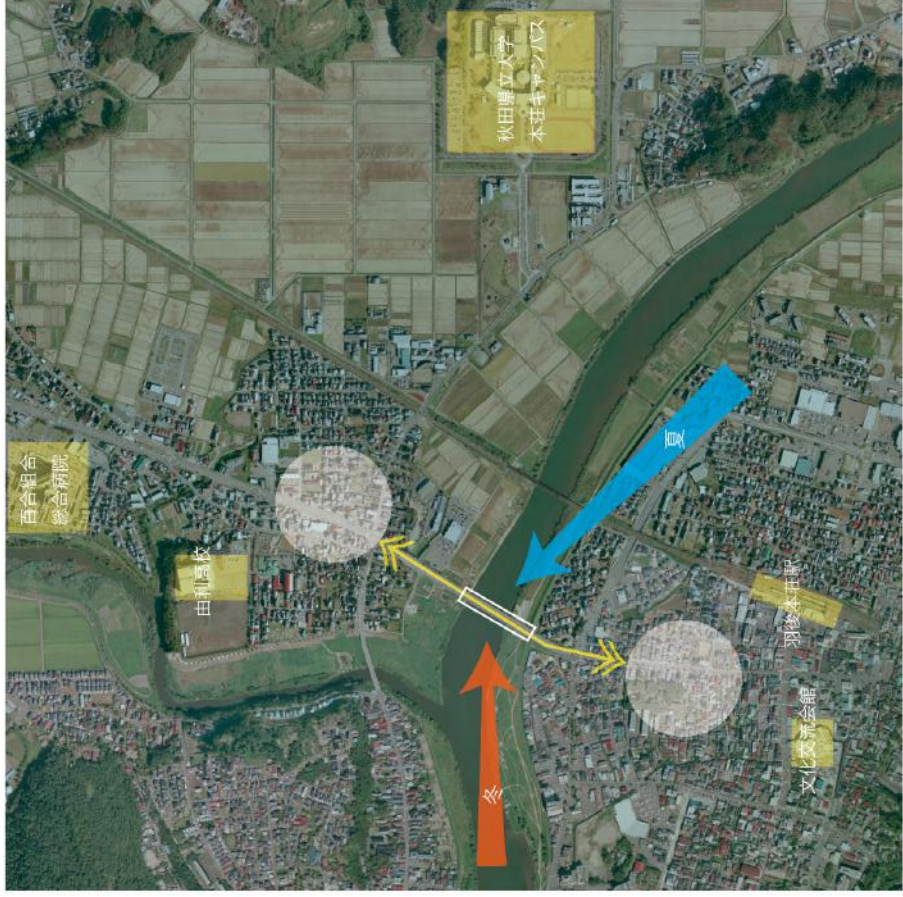


冬の橋の様子

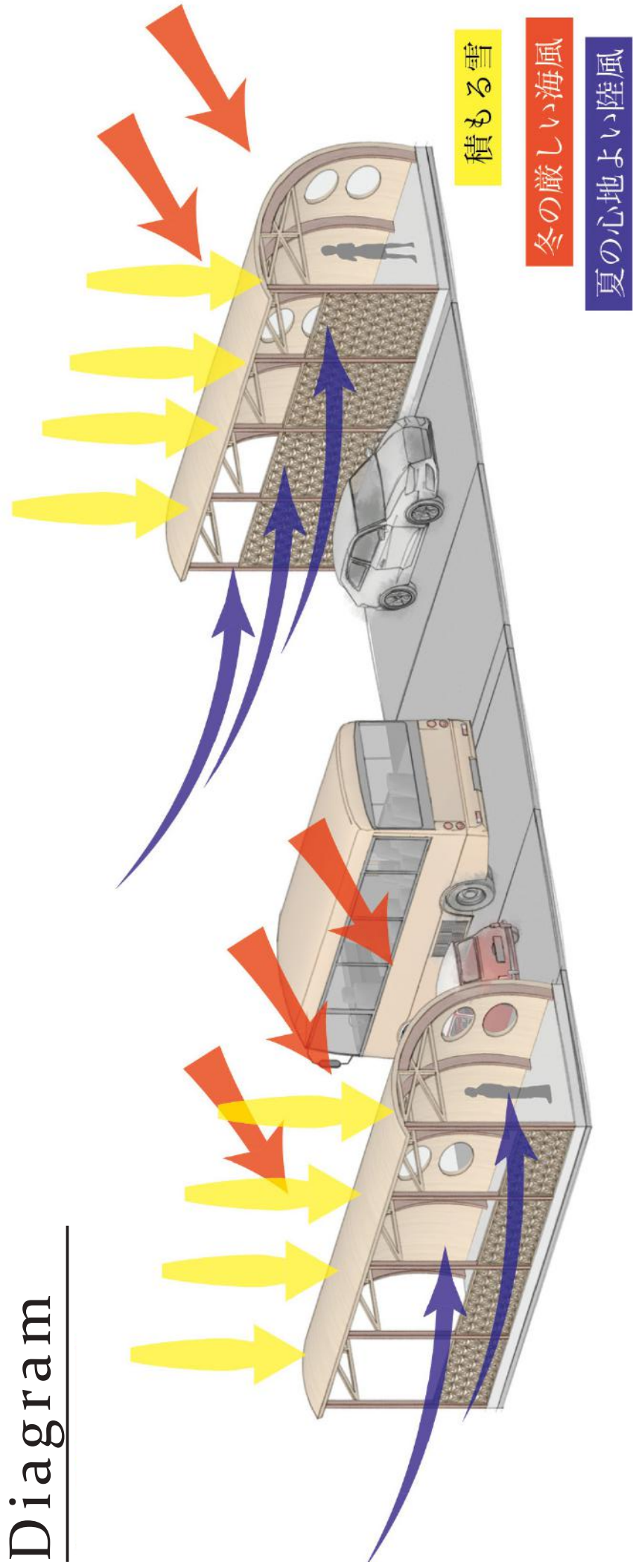


大学側にて

対象は駅前繁華街と大学や高校、総合病院をつなぐ橋。しかし、橋の北は冬は西からの風が、夏は鳥羽山側（東側）の隙風が強く吹き荒れる（風力発電が盛んな地域）。朝と夕の窓下段による学生や市街地に出かけていく通勤者といった通行者が多く見られるが、バスの利用者は減少傾向にあり、本数は減少している。



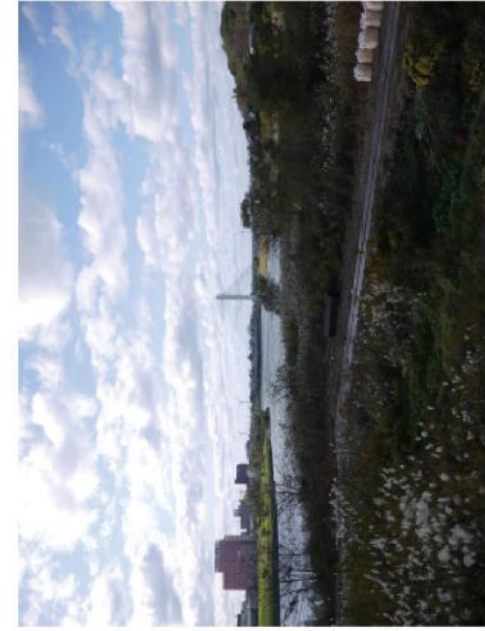
Diagram



積もる雪

冬の厳しい海風

夏の心地よい陸風



本来であれば広がっている景色



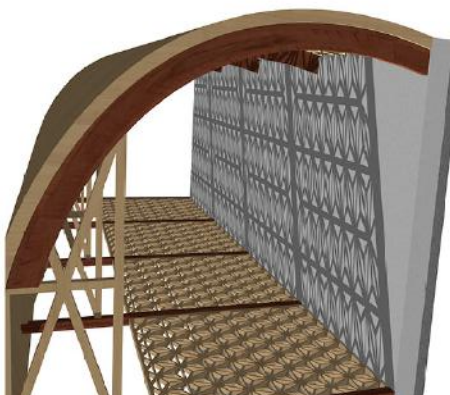
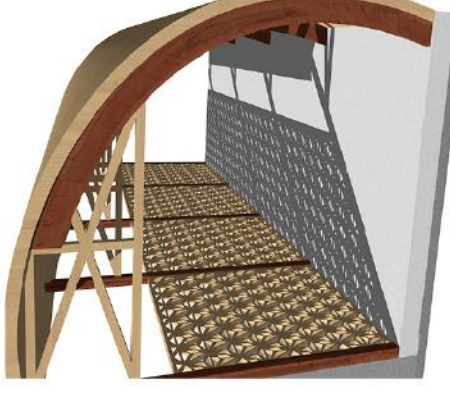
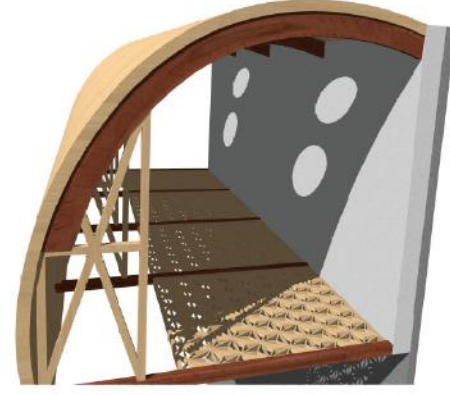
現在の風除け

- 【多くの問題点】
- ・ガラスच्छクの風除けは、剥れてしまっており景色を楽しむことができない。
 - ・風除けは高さが高く由利本荘市の風に対応できていない。
 - ・外見も少なく、役目は悪い。
 - ・冬はホワイトアウトすることも...

Issue

Program

組子の影は、1日の時間流れを可視化する。
由利本荘市（3月20日）：晴れでのシミュレーション



900

11,000

14,000

16,000

Component

曲げわっぱ

秋田県を代表する特産品。昭和55年には、国の伝統的工芸品に指定。

由利本荘市、横手市、能代市など秋田県各地で生産されている伝統的な木材工芸品。

組子



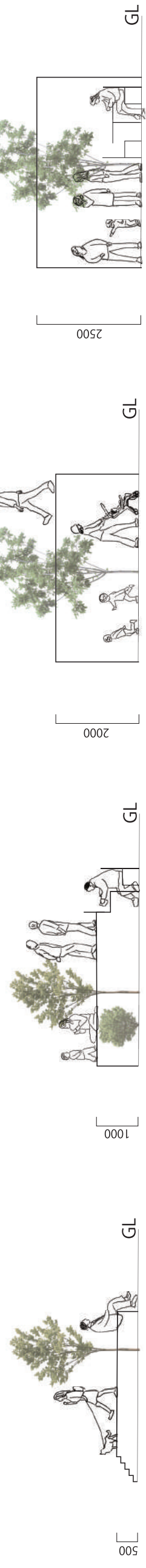
居場所の選択 ~フリーアドレス型木造パブリックスペースの提案~

人はその時々々の状況において快適だと思う温度が異なる。また、老若男女、様々な人が行き交う商業施設においてそれぞれ過ごしたいと思う空間は異なる。本計画は敷地をグリッド化し、レベル差をつけることで多くの居場所を提供しながら人の出会いに立体感を持たせる。また、そのレベル差によって生まれる空間を様々なパターンの遮光率によって分けることで空間に温度差を生み出す。そうすることで最適な温熱環境の居場所の選択を可能にする。自然と調和する姿として木造を採用し、商業施設の利用客だけでなく散歩に来る人など、様々な人がこの空間を利用することで新たな出会いが生まれることを期待する。



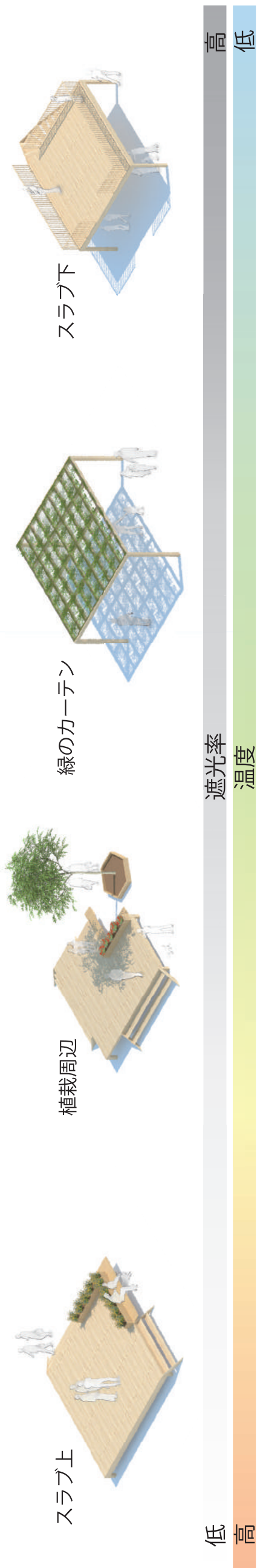
レベル差によって生まれる空間利用

本計画はGLからのスラブの高さを+500mm,+1000mm,+2000mm,+2500mmの4つのパターンに設定し敷地内にそれぞれランダムに配置した。+500mmのスラブは椅子としても利用でき、+1000mmのスラブは机としても利用できる。+2000mmのスラブは上下の空間を利用可能とし、+2500mmのスラブは光を遮光する屋根として変化する。このようにスラブを他の用途として利用したり、レベルを変化させ空間を生み出すことで様々な導線が生まれ、それにより人々の様々な行動を誘発させる。



遮光率による空間温度の操作

レベル差によって生まれた様々な空間を遮光率の異なる4つの空間となるように緑のカーテンや植栽を用いて計画した。遮光率の割合の違いは空間に温度差を生み出す。人は同じ空間であっても違った印象を持つ。例えば、日向で走っていた人と日陰で座っていた人、両者が同じ空間にいたとしても一方は暑く感じられるかもしれないし、逆に寒く感じるかもしれない。本計画は、遮光率の違いにより空間に温度差を生み出すことで、利用者自らがその状況、状態にあった1番快適な温熱環境の居場所を見つけてその空間を選択し、利用することを期待する。



A-A' 断面/バス



